

まんがと写真でたどる 戦争と暮らし



北区戦後80年誌

まんがと写真でたどる

戦争と暮らし



北区戦後 80 年誌

まんがと写真でたどる 戦争と暮らし

発行 東京都北区

発行日 令和 8 年 (2026) 3 月 31 日

編集 東京都北区総務部総務課

〒114-8508 東京都北区王子本町 1-15-22

03-3908-1111 (代表)

<https://www.city.kita.lg.jp/>

刊行物登録番号 7-1-095

印刷 株式会社 瞬報社

山口県下関市長府扇町 9-50

東京都北区

北区戦後80年誌発刊にあたって

東京都北区長 やまだ 加奈子



終戦後、80年が経ちました。私たちの暮らしは豊かになり、北区は活気に満ちた街に発展、成長しました。しかし、時が経つにつれ、戦争を体験した世代の方々は「高齢となり、地域に残る戦争の記憶は薄れていきつつあります。」

北区では、戦争の記憶を語りつき、平和の尊さを改めて考えてほしいと思い、次の世代を担う子どもたちに向けて、「北区戦後80年誌 まんがと写真でたどる 戦争と暮らし」を発刊しました。この本には、これまで区に寄せられた戦争の体験談や当時の資料、区が行った調査をもとに、戦中・戦後の北区では何が起きていたのか、まんがや写真を使用してわかりやすく説明しています。区民の皆様には、この本を通して、平和について考え、語り合い、これからの平和な未来につなげてほしいと願っています。

今年は、世界の恒久平和と永遠の繁栄を願い、北区が「平和都市宣言」を行ってから、40年の節目の年でもあります。この宣言に基づき、今後とも区民の皆様とともに、「誰かひとりではなく、みんなが豊かさを感じる」ことができる、あたたかな北区」の実現に向けて努力してまいります。

終わりに、本誌の作成に携わってくださった皆様、写真や資料等の提供にご協力をいただきました方々に心から感謝申し上げます。発刊にあたっての言葉といたします。

令和8（2026）年3月

目次

第1章 変わりゆく暮らし

- ・まんがでたどる北区と戦争 第1話
- ・解説 戦時体制から開戦へ／物資不足と配給制／銃後の守り／女性たちの戦い／戦時の学校生活／出征／勤労動員
- ・用語集①

第2章 迫りくる戦火

- ・まんがでたどる北区と戦争 第2話
- ・解説 空襲へのそなえ／コラム 戦争に利用された紙しばい／防空壕／コラム 飛鳥山の防空壕／空襲の被害／北区の戦災焼失区域／空襲の爪あと／子どもたちの苦難／疎開先での生活
- ・用語集②

第3章 焼け跡からの出発

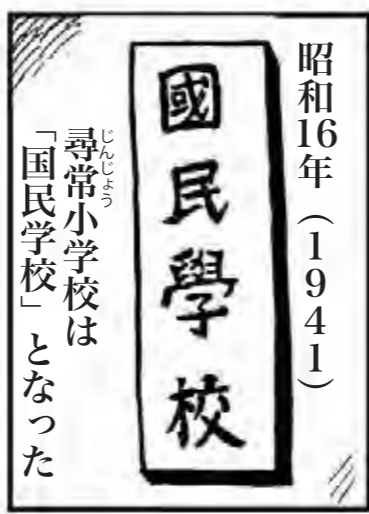
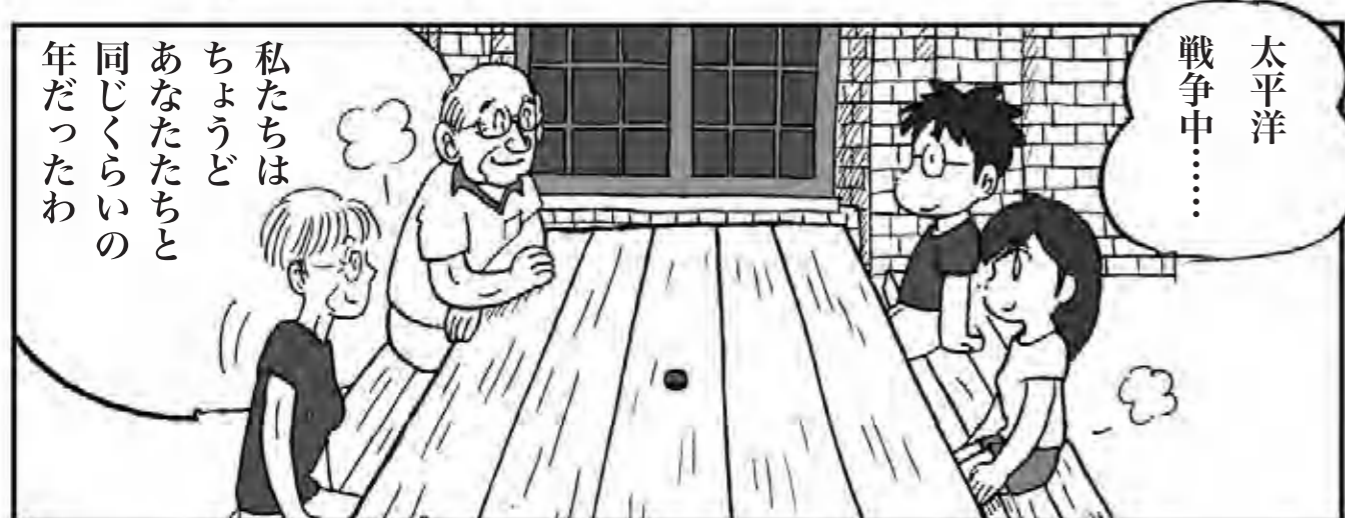
- ・まんがでたどる北区と戦争 第3話
- ・解説 戦後の苦しい生活／学校の再開／引き揚げ者の苦勞／軍用地の解放と返還／北区の成立と平和都市宣言
- ・用語集③
- ・まんがでたどる北区と戦争 エピローグ
- 北区戦争関連年表
- コラム 北区にあった軍の施設
- 北区ゆかりの人々と平和への思い
- 行ってみよう！北区について学べる施設
- 読んでみよう！戦後60年誌・70年誌

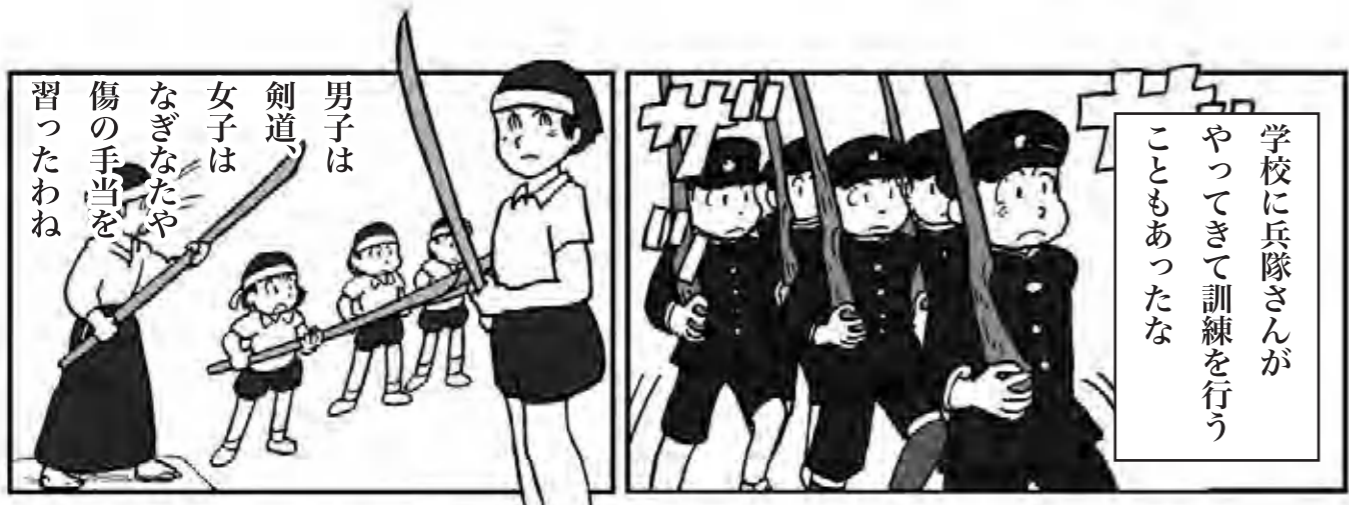


第1章 変わりゆく暮らし

まんがでたどる北区と戦争 第1話







男子は
剣道
女子は
なぎなたや
傷の手当を
習ったわね

学校に兵隊さんが
やってきて訓練を行う
こともあったな



毎朝登校
したら

おはよー



まず
奉安殿に
あいさつする

ホー
ポロポロ
?

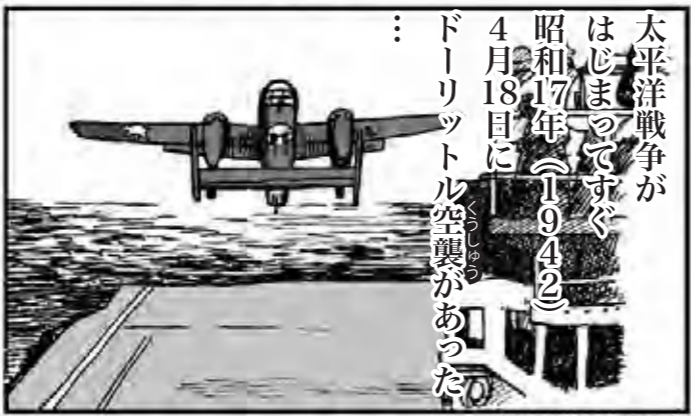


奉安殿は
一番大切な
ものだから
教えられていた



中に
入って
いるのは
御真影と
呼ばれた
天皇・
皇后
陛下の
お写真と

教育勅語だ
（きょういくちくご）



太平洋戦争が
はじまってすぐ
昭和17年（1942）
4月18日に
ドーリットル空襲があった



日本が受けた最初の
本土空襲ね
赤羽の工場が
ねらわれたのだけど
実際は荒川区で
被害が大きかったのよ



部屋には
たたみが
しかれていたの

家族みんな
ちやぶ台で
ごはんを
食べていたん
だよ

着物を
着ていた人も
多かったし
お母さんは
かつぼうを着
ていたなあ



▲板橋街道沿いの長屋をまねて作画

そのころは
木でできた家が
多くて



命より
大切なもの
として
扱われて
いて

先生は
何かあった
ときには
これを守らなくて
はいけなかった

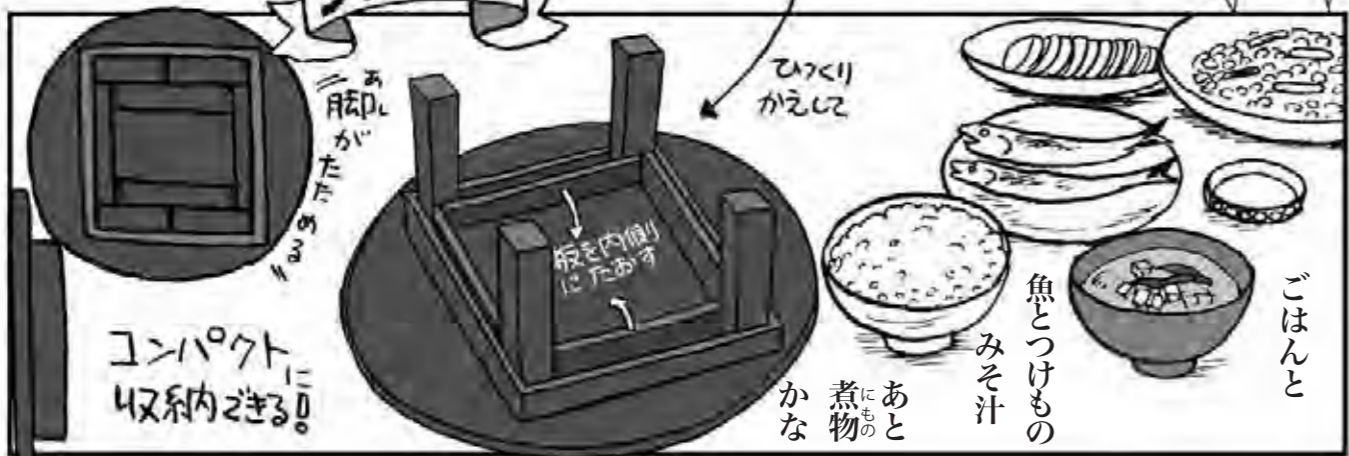


授業では
強い兵隊さんに
なるための
ことや
銃後（じゆうご）といつて
国を守るための
ことを
習ったの



空襲にそなえて
訓練したり

遠足では
神奈川県
横須賀へ
海軍の軍艦を
見に行ったり
したんだ

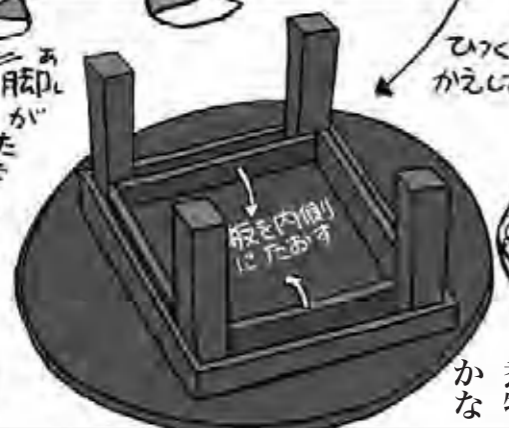


ちやぶ台

ごはん

魚と汁もの
みそ汁

あと
煮物
かな



コンパクトに
収納できる！

横浜市歴史博物館 Youtube『動画を見て調べよう！ 昔のくらし道具紹介「ちやぶ台」を参考に作画



戦時体制から開戦へ

明治時代から大正時代の日本は日清戦争・日露戦争・第一次世界大戦と、ほかの国々と戦争を重ねて領土を拡大してきました。やがて昭和6年（1931）に中国東北部で満州事変が起ると日本と中国の対立がますます深まり、昭和12年（1937）には日中戦争が始まりました。人びとの暮らしも戦争を優先した形（戦時体制）に急速に切りかわっていききました。

昭和15年（1940）、すべての国民が戦争に協力する体制を整えるため、政府は全国に10世帯前後を1組とした隣組を結成させました。隣組は定期的に話し合いの場（常会）を設けることや、政府からの通知を回覧板で伝えることが義務づけられました。そのほか、貯蓄の推進、防空訓練、金属などの回収、軍隊に入る兵士の見送りなど、隣組はさまざまな活動を団結して行いました。その一方で、戦争が長引くにつれ、国の方針に反対していないか、スパイ活動をしていないかなど、おたがいに監視するようになりました。

そして、昭和16年（1941）12月8日、日本軍がハワイの真珠湾に攻撃をかけ、ついに太平洋戦争が開戦しました。日本などの枢軸国とアメリカ合衆国・イギリスなどの連合国との間で始まった戦争は、人びとの暮らしと生き方を大きく変えていきました。



物資不足と配給制

日中戦争が始まると他国からの輸出入が制限されてしまい、さまざまな物資が不足するようになりました。そこで、軍隊で使うもの（軍事物資）の材料を優先して確保するため、政府が物資の配分を決めるようになりました。また、物価も高くなつたので、物資の値段も政府が「公定価格」として決めました。

やがて戦争が長引くにつれて、食料品などの生活必需品もひどく不足するようになったことから、物資を公平に配分するため大都市には配給制が導入されました。昭和15年（1940）の砂糖、マッチに始まり、米・酒・木炭・塩・みそ・しょう油、魚類、青果、衣料品などが次々と配給制の対象となりました。

配給通帳・切符は家ごとに配布され、品目ごとに買える数量が決まっていました。たとえば、米の場合は年令・性別ごとに一人一日当たりの割当量が示され、その家の人数分だけ買うことができました。衣料品は決められた点数分の切符を「衣料切符」から切り取って買う時に提出します。

実際には物資そのものが不足しているため、配給の割当だけでは人々の生活は成り立たず、知人に譲ってもらったり、遠方へ買い出しに行ったりと、さまざまな方法で物資を手寄せざるをえませんでした。



隣組購入台帳
昭和19年（1944）
物資不足が進むと隣組を通して食料が配給されるようになった。



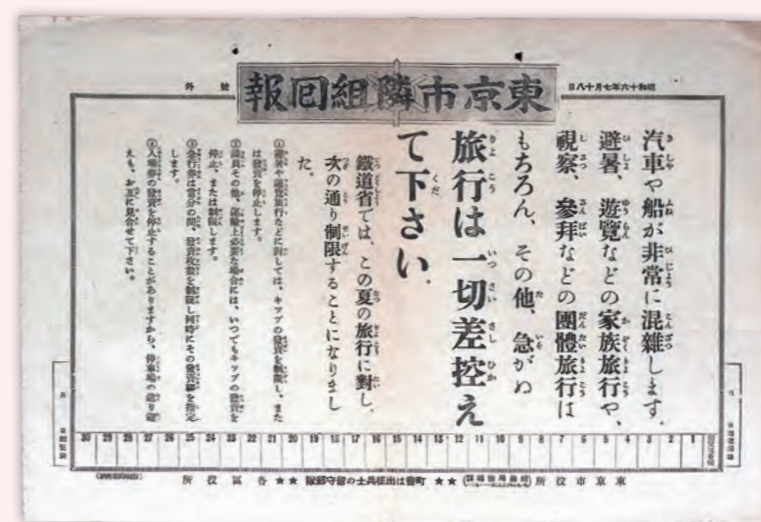
家庭用品購入通帳（表紙）（見開き）
昭和18年（1943）
砂糖・マッチ・酒・みそ・しょう油・石けんなどの購入券が一冊にまとめられている。



衣料切符
昭和19年（1944）
戦争が長引くにつれて割り当てられる点数も減っていった。



パン類購入券
昭和18年（1943）
裏面に「パン類毎月一回 菓子パン三個デス」と記されている。



東京市隣組回報
昭和16年（1941）
太平洋戦争の開戦前だが、すでに旅行は制限されている。



隣組パズル
昭和10年代
隣組の役割がパズルで学べるようになっていく。



隣組台帳
昭和18年（1943）
隣組の防空設備や配給量の一覧、各世帯のくわしい情報などを記入する。



隣組防空群長 腕章
昭和10年代
隣組の防空群長が訓練のときなどに使用した。



銃後の守り

昭和13年（1938）、政府は国民の労働力やあらゆる物資・資源を戦争のために使えるようにしました（国家総動員法）。実際に戦争が始まると、主な働き手だった男性たちが兵士として次々と戦地へ送られてしまったため、男性たちが戻ってくるまでは残った人たちが日常の生活を守っていかねばなりません。そのため、戦争に行かない女性や中高年の人たちは、戦地で戦う兵士を後ろから支える気持ちで働くことを求められました（銃後の守り）。たとえば、家庭にある金属製品の供出に協力する、食料不足をおぎなうため共同で菜園を作る、防空訓練をおこなうなど、やるべき仕事は数多くありました。

また、戦争にはばく大な費用がかかるため、「ぜいたくは敵だ！」の標語のもと、人々は節約と貯蓄に励むように指導されました。たびたび国庫債券（国債）も発行され、人々は節約して貯めたお金で国債を買い求めました。隣組に配布された本にも「日本中でそれぞれ百円の国債を買えば、飛行機なら12000機できる」と具体的に書かれていて、「銃後の協力は国債を買うことだ。」と標語も示されています。しかし、戦争が終わると国債の価値は失われて、紙くず同然になってしまいました。



女性たちの戦い

男性たちが戦地へと送り出されていくなか、「産めよふやせよ」の標語のもと、女性は早く結婚をして一人でも多くの健康な子どもを産むように期待されました。そして、結婚した女性たちは良い妻・賢い母（良妻賢母）であることを求められました。また、家庭を持った女性たちは愛国婦人会や大日本国防婦人会といった女性団体に参加して、戦争でなくなった方やケガをした方の家を訪ねたり（慰問）、戦地へ慰問袋をおくったり、防空訓練を行うなど、さまざまな活動を積極的に行っていました。太平洋戦争が始まると、女性団体は大日本婦人会にまとめられ、成人女性はすべて「銃後の守り」に努めるように仕向けられていきました。

さらに、男性が次々と戦地へ送られるため、女性たちには人手不足をおぎなう役目も加わりました。太平洋戦争が長引くなか、12才から40才までの未婚女性は強制的に戦争で使うものを作る工場などで働くことが義務づけられ、北区内にあった軍の工場でも女子学生など女性たちがたくさん働いていました。ほかにも、隣組の仕事や訓練をこなし、配給の列にならんで食料や物資を確保するなど、戦地に行かない女性たちも、父や夫のいない家を守るために必死で戦っていたのです。



愛国婦人会の女性たち（絵葉書）
昭和17年（1942）以前
王子の愛国婦人会の女性たちが慰問袋を作成したときの記念写真。慰問袋には石けんなどの日用品や食料品、薬などを詰めた。



婦人会タスキ
昭和17年（1942）以前
愛国婦人会王子区分会と大日本国防婦人会のタスキ。

慰問袋
昭和初めか
「武運長久」の文字と日の丸の旗などの絵が描かれた手ぬぐいで作られている。



大日本国防婦人会の女性たち
昭和17年（1942）以前
王子の「名主の滝」での記念写真。同会の会員は白いカッポウ着にタスキを必ず身につけた。



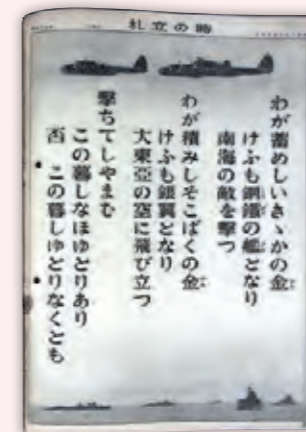
東京市隣組回報（ウラ面）
昭和16年（1941）
金属の回収を伝える文には、鉄・銅・銅の合金が回収の対象と記されている。



マッチすり（代用品）
昭和10年代
マッチに火をつけるためのリンも不足したため、陶器で代用品が作られた。



大東亜戦争割引国庫債券
昭和18年（1943）
額面50円だが、割引で発行価格30円となっている。戦時中は払い戻しを求めることが難しかった。



貯蓄をすすめる広告
昭和18年（1943）「写真週報」
戦争に勝つため国民の財産を国債や貯蓄に使うようにすすめている。



戦時の学校生活

戦時体制のもとでは、子どもたちも年少の国民として戦争に協力することが求められ、「少国民」とよばれました。昭和16年（1941）には、それまでの尋常小学校（6年）と高等小学校（2年）をあわせて「国民学校」に改められ、国のために戦える人を育てる教育が行われるようになりました。

国民学校で学ぶ科目は国民科（修身・国語・国史・地理）、理科（算数・理科）、体操科（武道・体操）、芸能科（音楽・習字・図画・工作・裁縫）の4教科で、なかでも国民科の修身や国史は、愛国心や天皇への忠誠心を高める内容になりました。体操科も重視され、身体をきたえるだけでなく、軍事訓練のような練習も行いました。その他の科目でも、たとえば音楽では教科書から外国の曲がなくなつて「おもちゃの戦車」「戦友」「特別攻撃隊」などの新たな曲に変わるなど、すべての科目が戦争に関係する内容になりました。

授業以外でも、子どもたちは「日参団」を組んで、毎日登校する前に地元の神社で戦勝を祈願する活動を行いました。友だち同士の遊びも、兵隊ごっこや陣取りなど、軍隊や戦争に関するものとなり、子どもたちの生活は戦争一色に染められていきました。

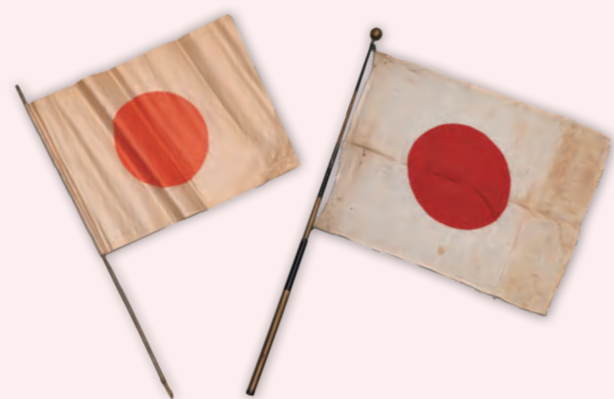


出征

少国民と呼ばれた子どもたちも、徴兵制度により、17才になると男性は国民軍の一員となりました。20才で徴兵検査をうけ、甲種（五段階評価で最良）合格者から抽選を行い、選ばれた人が2年または3年間、軍隊に入りました。軍隊に入ること陸軍の場合は入営・海軍の場合は入団といい、実際に戦地へ行くことを出征といえます。

戦争中は、兵士となることは日本の国のために働く名誉なことだと教えられていたので、入営や出征が決まると、親せきや近所の人が旗やのぼりをおくつて祝いました。また、戦地から無事に帰ってくることを願って「千人針」を持たせることもありました。千人針は、布に赤い糸で女性がひと針ずつ結び目をぬいつけたものです。千人針は弾除けになるといわれ、兵士は腹巻きにするなどして身につけました。

戦争が激しくなると兵士の数が足りなくなり、昭和18年（1943）に、大学生や専門学校生も軍隊に入ることが決まりました。徴兵検査の年齢も19才になり、軍隊に入る年齢が45才までに広げ、兵士不足を補おうとしました。徴兵検査の結果が甲種合格者以外の人や、一度入隊したことがある人も再び軍隊に入るようになりました。このときの召集令状は、赤くめられた紙を使用したので「赤紙」と呼ばれました。



日の丸小旗
昭和10年代
兵士を見送る時には、みんなで日の丸の小旗をふった。



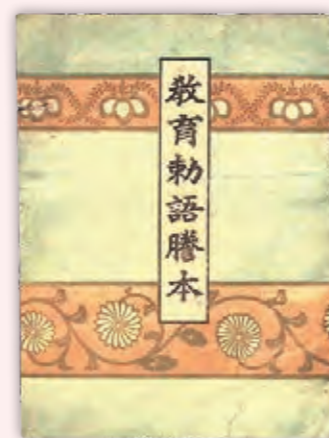
出征兵士の見送り
昭和16年（1941）くろつぶ理容室（三浦調髪所）提供
滝野川での見送り。戦争が始まったころは日の丸を手にした多くの人が集まったが、昭和19年になると家族だけでひっそりと見送るようになった。



千人針
昭和10年代
「虎は千里を行き千里を帰る」という言い伝えから虎を描いたり、鉄砲の弾にあたらぬまじない言葉を書くこともあった。



軍隊手帳
昭和20年（1945）以前
星のマークは陸軍で使用した。入営する兵士は「奉公袋」に軍隊手帳や召集令状、貯金通帳などを入れ、身につけた。



教育勅語とう本
昭和18年（1943）以前
教育勅語の内容を写したものの、北区の豊川小学校で使用した。



雑誌『写真週報』
昭和13年（1938）
当時の内閣情報部が発行した雑誌の表紙には「愛国行進曲」を合唱する子どもたちの写真が使われている。



教科書『ヨミカタ ー』
昭和16年（1941）
国民学校初等科一年生が使う国語の教科書でも兵隊の行進が題材となっている。



児童向けレコード
昭和10年代
戦前の小学生は必ず歌えた「君が代」「一月一日」と「紀元節」「金剛石」が収められている。



勤労働員

多くの男性が兵士として軍隊に入ると、その分、国内で労働力が不足するようになりました。そこで、12才以上の生徒や学生たちが、学校ごとに割り当てられた工場や、働き手が兵士となった農家の手伝いをしました（学徒勤労働員）。生まれて初めて農業をした学生も多くいました。防空壕（28ページ参考）をほったり、建物疎開（38ページ参考）のために建物をこわす作業などもしました。はじめは数日だった勤労働員が、昭和19年（1944）には一年中の作業となりました。

会社や商店などに勤めていない女性のうち、結婚していない16才以上の女性は軍の工場で働くことになりました。工場で働くことを自分から申し出る女性もいれば、工場で働くのがいやで、急いで別の会社に就職したり結婚する人もいました。

女性たちは、赤羽台にあった陸軍の被服本廠の工場では軍服をぬったり仕分けする作業をし、十条台にあった第一陸軍造兵廠の工場では、製造された弾を箱につめたり、風船爆弾の気球を作る作業をしていました。風船爆弾は、のりで和紙を何層にもはって作った直径10メートルほどの気球に爆弾をつけて、アメリカへ飛ばした兵器です。終戦後、自分が作業に参加していた風船爆弾によって実際にアメリカで死者が出た事を知り、ショックを受けた女性もいました。



軍工場で働く女性を紹介する雑誌記事
昭和15年（1940）
東京第一陸軍造兵廠で弾を箱につめる女性。



東京第一陸軍造兵廠
紅葉門の標識（右）
と門標（左）
昭和15年（1940）ころ
星に丸のマークは昭和15
年制定の東京第一陸軍造
兵廠の標識。



陸軍被服本廠
裁縫工場（絵葉書）
大正期か
大勢が分業してミシン
や手ぬいで軍服をぬい
上げていく。



第一陸軍造兵廠ができたころの様子（絵葉書）
明治39年（1906）（スタンプ日付）
広い敷地にれんが造の工場が並んでいた。はじめは東京砲兵工廠
銃砲製造所と呼んだ。

01

日中戦争

昭和6年（1931）、日本は中国の東北部の満州を占領して満州国を建てますが（満州事変）、これに抵抗する中華民国国民政府と日本軍は激しい争いをくり返すようになりました。やがて昭和12年（1937）7月7日、中国北部で起きた争いをきっかけに日中戦争が始まりました。中国各地で戦いが続き、昭和16年（1941）に中国を支援していたアメリカと太平洋戦争になりました。太平洋戦争の終わりとともに日中戦争も終わったといえます。

02

太平洋戦争

太平洋戦争は昭和16年（1941）から同20年（1945）まで、日本・ドイツ・イタリアなどの枢軸国とアメリカ・イギリス・中国などの連合国との間で行われた戦争のことです。第二次世界大戦の一部でもあります。昭和16年12月8日、日本軍のマレー方面への攻撃（マレー作戦）とハワイの真珠湾攻撃によって戦争が始まり、はじめの半年は日本が東南アジア方面をつぎつぎと攻略しました。しかし、翌17年6月にはミッドウェー海戦で日本海軍がアメリカ海軍に大敗し、その後もガダルカナル島・アッツ島での激戦に敗れました。昭和19年（1944）になると、日本本土への空襲がだんだんと増え、昭和20年3月には東京大空襲、8月には広島・長崎に原爆が投下されて、非常に多くの命が失われました。同年8月15日、玉音放送で戦争の終わりが伝えられ、9月2日に日本が連合国に降伏する文書を受け入れて、ようやく戦争が終わりました。

03

徴兵・徴用

国家が国民を兵士として集める制度を徴兵制といいますが、明治6年（1873）の徴兵令によって、17才から40才までの男性全員が国民軍名簿に登録され、男性は20才になると徴兵検査を受け、合格者の中から軍隊に入る人が選ばれました。はじめは、家の跡継ぎとなる長男や大学生などは兵士となることを免除されていました。戦争が続くと、兵力不足を補うため、昭和18年（1943）には学生も入隊することになり、各地で学生を送り出す壮行会が行われました（学徒出陣）。当時、日本の植民地だった朝鮮・台湾の人も徴兵されました。昭和20年（1945）に日本が戦争に負けると、軍隊は解体され、徴兵制度は廃止されました。戦争中は兵士だけでなく、工場などで働く人も政府が強制的に集めるようになりました。これを徴用といいます。昭和13年（1938）の国家総動員法と翌14年の国民徴用令で、国家が管理・指定する工場や軍関係の工場に多くの技術者が徴用されました。昭和16年（1941）からは女性もふくめた徴用が行われ、その後も学徒勤労働員や女子挺身隊などにより、労働力不足を補おうとしました。



04

配給制度

戦争や災害がおきたときに、かぎりある物資の配分や購入方法などを政府が決めることを配給といいます。日中戦争が始まると、軍隊で使う物資から配給制が始まりました。昭和15年（1940）からは米・みそ・しょう油など人々の生活に欠かせない10品目が次々と配給制となりました。配給制では家族構成や年齢などによって購入できる数量が決まります。しかし、戦争が長引くと物資そのものが不足し、十分な量が手に入らなくなりました。配給制度は戦後も物資不足が落ち着くまで続きました。

06

教育勅語

明治23年（1890）、近代日本の教育方針として、明治天皇の名のもとに国民へ発せられたことばです。そこには、天皇をうやまい、国を愛することなどが示されており、神聖なものとして扱われました。全国の学校に「教育勅語」の複製品が配られ、学校内に建てられた「奉安殿」にしまわれました。登下校時などには、教師や生徒も奉安殿に向かって最敬礼をしなければなりませんでした。



奉安殿
昭和14年（1939）荒川尋常小学校『卒業記念写真帖』より

05

供出

戦争のため、不足する物資を国民から提供させました。農家からは米をはじめとする農産物や軍馬とするための馬を提供させました。武器をつくるためには大量の鉄・銅などの金属が必要だったため、昭和16年（1941）に金属回収令が出されると、鉄製の門や金属製のボタンまで集められました。滝野川国民学校の記録では、ゴミ箱・ストープ・石炭バケツ・洗面器・火鉢のほか、水道の栓も回収の対象になっていました。お寺のつり鐘も回収の対象となりましたが、浮間観音寺の鐘は、戦後、奇跡的に寺に戻されることができました。供出した金属製品の代わりに、さまざまな代用品がつくられました。



07

国民学校

昭和16年（1941）4月、「尋常小学校」は「国民学校」という名称に変わりました。それにより教科書や授業の内容も戦争の影響を強く受けたものになります。国民学校では、天皇と国家のために命をささげるように教育され、歩き方や姿勢などの日常の細かい身のこなしまで規則にじょうずになりました。当時の子どもたちは、小さくても天皇に仕える国民という意味をこめて「少国民」とよばれました。

第2章 せま 迫りくる戦火

まんがでたどる北区と戦争 第2話

昭和19年（1944）7月
サイパンが陥落して
空襲の危険が増してきたの…

そこで「少国民」である子どもたちを守るため
疎開が始まったのよ

ソカイ ???

6年生 3年生

学童集団 疎開といって
子どもたちを空襲から遠ざけるために
地方へ集団で避難させたの

別に、家族単位で縁故疎開する人もいたわ…

都市 ← 地方

残った大人たちは、日本での決戦にむけて

竹やり訓練とかしていたぞうだ…

竹やりで戦うのいけ

北区の子どもたちは主に群馬県のお寺や旅館に疎開していたんだよ

オレたちも群馬県に疎開した

群馬県 赤羽駅から汽車でいったの

静岡県の沼津市に疎開した学校もあるわ

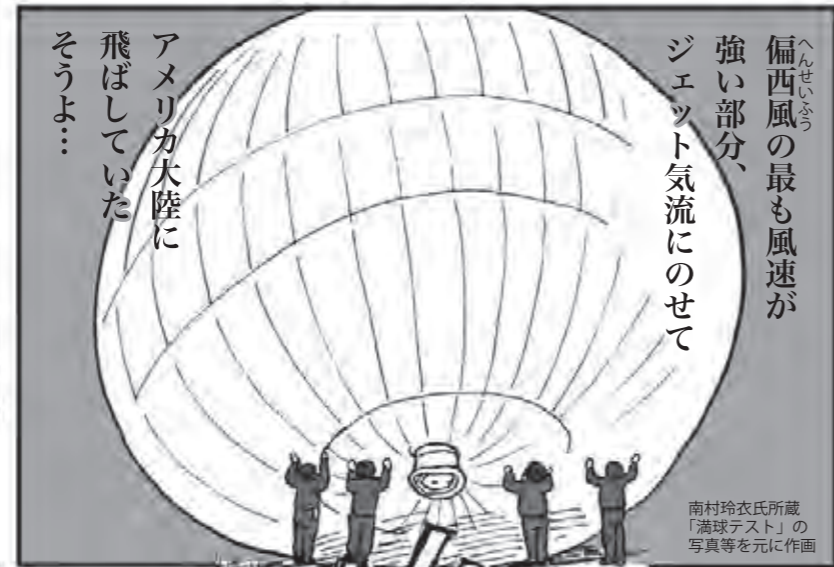


当時 誰にも
言えなかった
そうなんだけど
風船爆弾を
つくっていたん
ですって…

働くことに
なって
女学生だった
近所のお姉さんは
陸軍の工場で



風船爆弾は
昭和19年(1944)11月から
昭和20年(1945)3月まで
約9300個あまりが
千葉県、茨城県、福島県から
飛ばされた

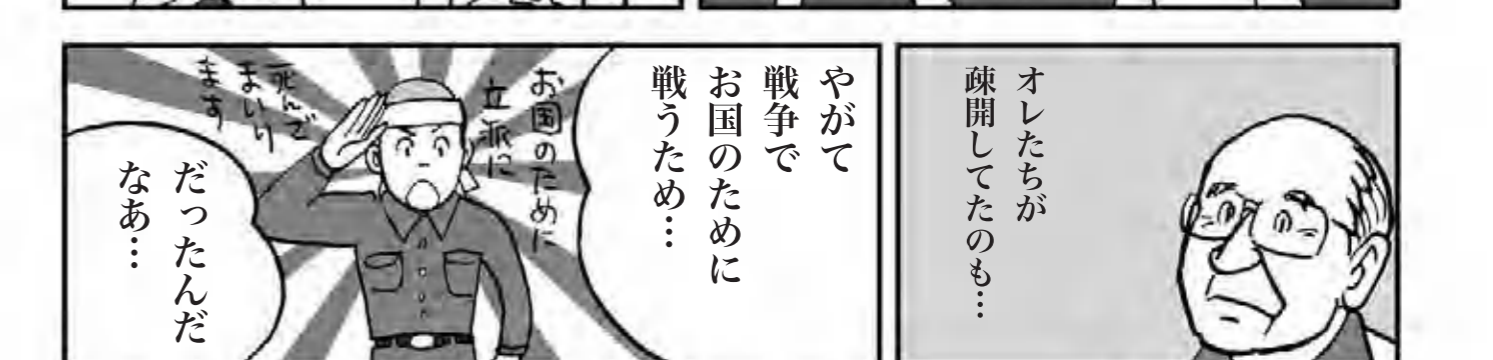
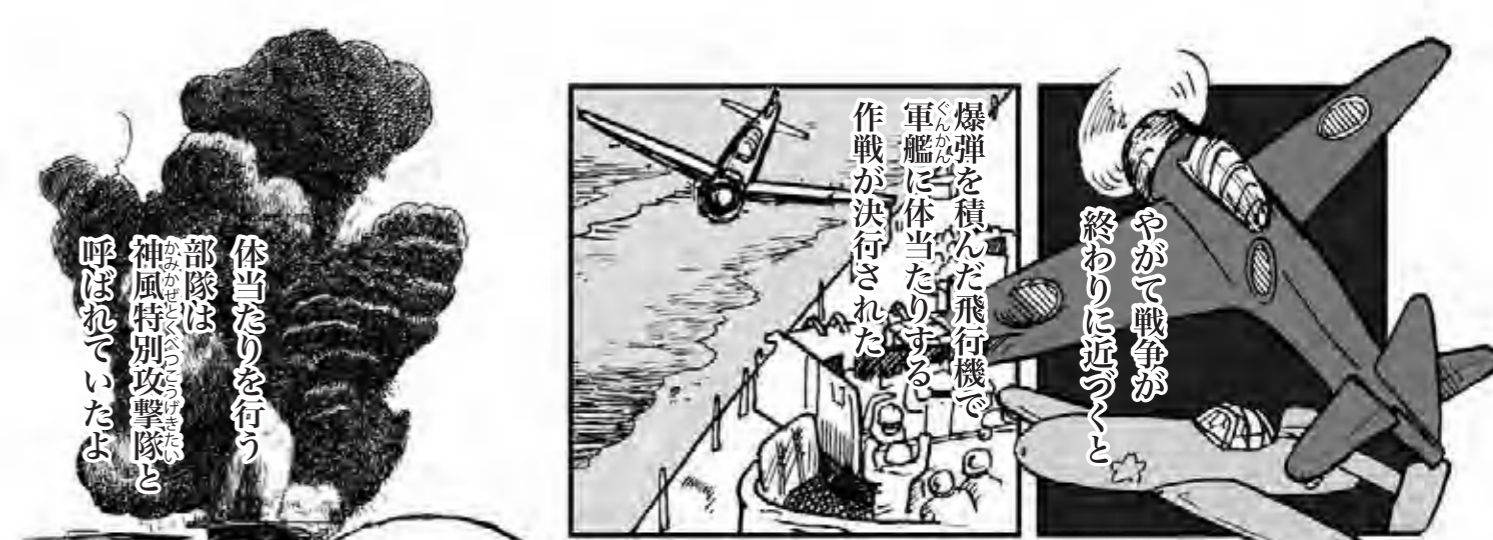
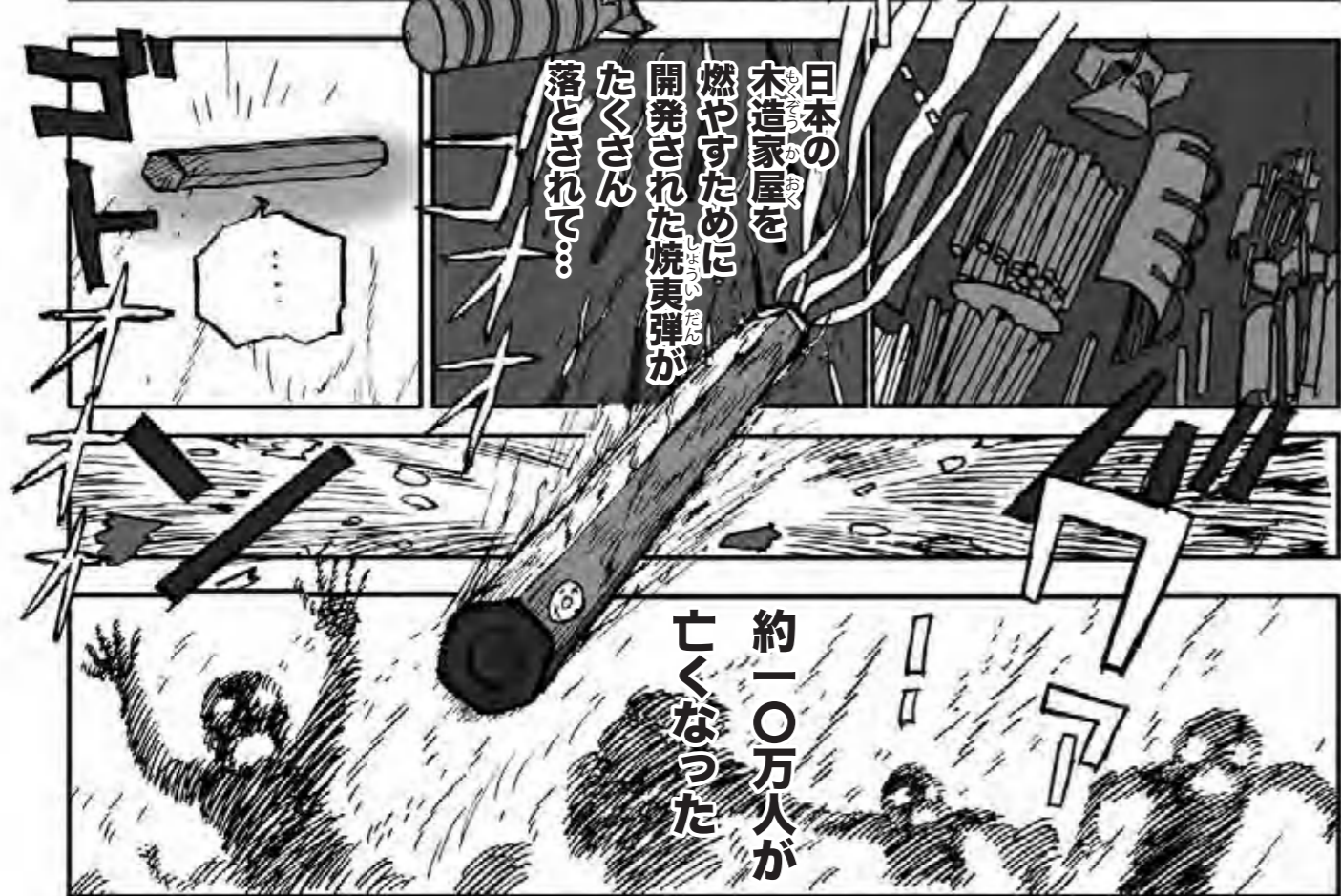
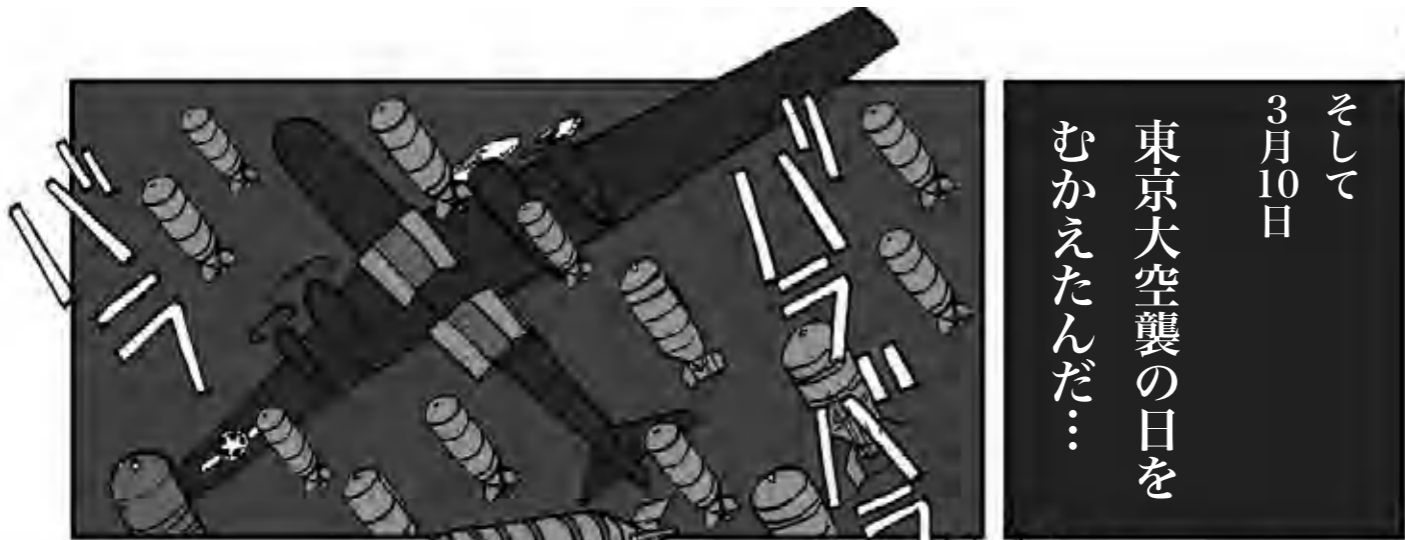


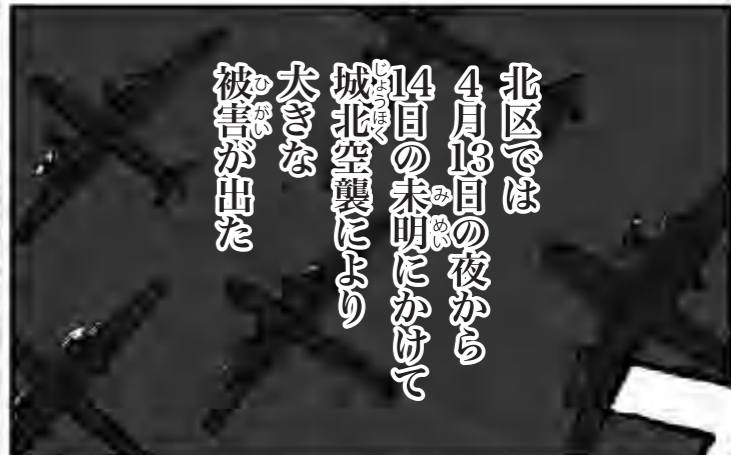
南村玲衣氏所蔵
「満球テスト」の
写真等を元に作画



神谷国民学校の疎開先群馬県長学寺寮にて炊事当番(鈴木和子氏提供) 写真などを参考に作画









空襲へのそなえ

飛行機から銃や爆弾、焼夷弾などで空から攻撃することを空襲といいます。空襲にどう準備するかを定めた「防空法」が昭和12年（1937）に制定され、二つの点が重視されました。

一つは、灯火管制です。夜、窓からもれた光が敵の飛行機の目印にならないよう、各家では、夜は電灯に黒い布をかけたり、笠をかぶせるなどして光が広がらないようにし、側面が黒くぬられて真下しか照らさない電球も考えだされました。

もう一つは消火です。空襲で火事が発生した時に備えて、火を消すための道具「火たたき」を、出入り口や庭先など、すぐ使えるところに準備しました。火たたきは、長い竹ざおの先に手ぬぐいをさいた布やなわを巻いたもので、水でぬらして火をたたいて消します。家の外には「防火水そう」に水をためて備えました。隣組で協力して火事を消すための訓練もたびたび行われました。はじめは、火事が起きたらすぐに近所の人たちで消火する方針でしたが、実際に空襲を受けると、火たたきや水そうの水だけで火事を消すことは難しく、空襲を受けたら避難する方針に変わりました。消火の訓練とあわせて、毒ガスの爆弾が落とされた時のために、防毒マスクをつける訓練も行われました。

昭和19年（1944）からは、建物を強制的にこわして空き地をつくる、建物疎開も行われました。

column コラム



戦争に利用された紙しばい

「クウシフ」（読み方：クウシユウ）は、昭和18年（1943）11月に発行（全甲社紙芝居刊行会）された幼児向けの国策紙しばい（内務省防空局指導）の一つです。「とりの国」と「けもの国」が戦争し、とりの国の爆撃機が落とす焼夷弾から身を守るため、けもの国の子どもたちがやらねばならないこと、してはいけないことなどがわかりやすく描かれています。こうした国策紙しばいには、戦争を支えるための生活の仕方や体力の向上を呼びかけるものなど、戦争への備えを高める役割があり、子どもたちをたくさん集め、施設や学校単位で上演されました。

紙しばいは全部で20枚あります。そのうちの5枚を紹介します。



表紙



とりの国の爆撃機



けもの国の隣組の子どもたちが防空壕に避難



避難所に向かう子どもたち



隣組で消火活動



紙しばいを見る子どもたち



防毒マスク

昭和10年代

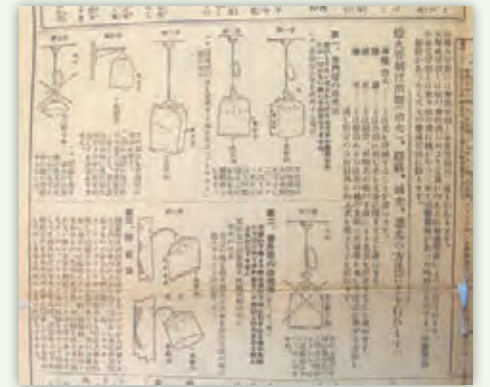
吸収缶を通して毒ガスがろ過された空気を吸う仕組み。赤羽北に防毒マスクの製造工場があった。



防空電灯笠と電球

昭和10年代

子どもたちは電灯の真下にちゃぶ台を持ってきて勉強した。



防空に関する市民心得

昭和11年（1936）

解説図を参考に、各家で電灯に布や笠をかぶせた。



防火訓練の様子

昭和10年代 田辺弘子氏提供

田端で行われた訓練。一列になった女性が水を入れたバケツをリレーしている。



雑誌に載せられた防空のためのふだんの準備

昭和18年（1943）（「写真週報」）

各家での防空方法を解説した雑誌が多数出版された。



防空壕

防空壕は、敵の飛行機からの攻撃や爆弾が落ちたときの激しい風から身を守るため、地面に穴をほってつくった避難場所です。敵の飛行機が飛んできたことを知らせる空襲警報が鳴ると、近くの防空壕に入りました。

昭和18年(1943)ころから、家のゆか下や庭先、学校の校庭、工場の空き地、大きな道路や線路沿いなど、身の回りにたくさん防空壕がつくられました。学校では、校庭や校舎のゆか下に防空壕をほりました。1メートルほど穴をほっただけの防空壕もあれば、深くほった穴のかべに板を打って倉庫のようにつくったものもありました。

防空壕の作り方が図入りで説明されたパンフレットもつくられ、そこでは、防空壕に入る時には鉄かぶとや防空頭巾をかぶって頭を守るようにし、たたみや板で穴の上からふたをするように説明されていました。しかし、空襲でにげこんだ防空壕から出られなくなったり、防空壕がつぶれてそのまま亡くなる人もいました。

戦争が終わると、家庭や学校につくられた防空壕の多くはうめられ、野菜をつくる畑などになりました。がけに横穴をほってつくった防空壕も、くずれて危険なため、現在はほとんどがうめられています。

飛鳥山の防空壕

北区の地形は、低地と武蔵野台地の高台からなり、坂が多くみられます。そのため、武蔵野台地のがけに横穴をほった防空壕が多くつくられました。飛鳥山にも、横穴式の防空壕がつくられました。滝野川馬場自治会が保存していた図面を見ると、西側に7ヶ所、東側に3ヶ所の入口があり、飛鳥山の地中にトンネルのように長い横穴がつくられていたことが分かります。飛鳥山の東側は、すぐ近くに王子駅や線路が通っているので、警報が鳴ったら電車から飛び降りて避難できるよう、入口があつたでしょう。本郷通りや飛鳥山のグラウンドから入る西側の入口は、近くに住む町の人々が避難するための防空壕でした。どこの町の人ほどの入口を使うのか、あらかじめ決められていたことが、図面への書き込みから分かります。

column コラム



飛鳥山の防空壕
滝野川第三小学校創立70周年記念誌

この迷路のような飛鳥山防空壕は、昭和19年(1944)の夏に、板橋区にあった中学校の生徒たちが勤労働員でほっていました。地中にレールを引き、トロッキ(手おし車)で土を運び出しました。近所の子どもたちがこっそりトロッキを走らせて遊んだこともありましたが、戦争が終わると、防空壕はすべてうめられ、いまではその入口も分からなくなっています。



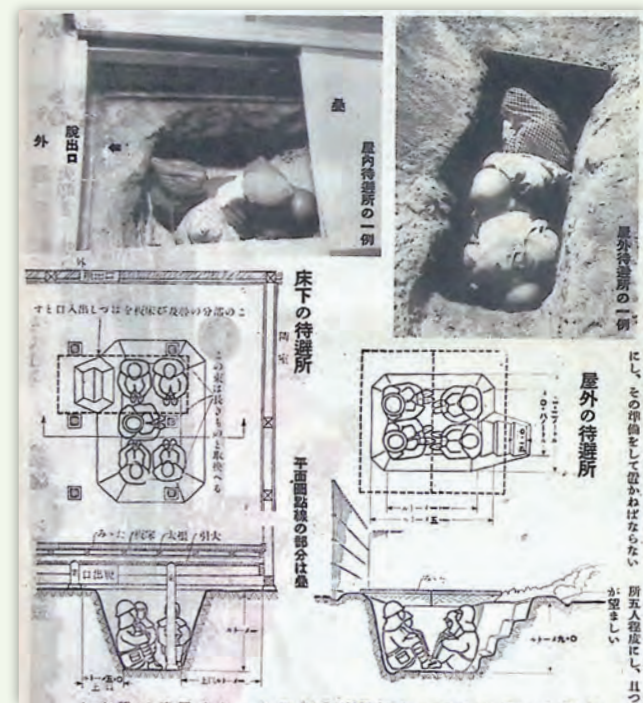
飛鳥山防空隧道要図
昭和19年(1944)ころ
滝野川馬場自治会文書
北区立中央図書館蔵



滝野川第三国民学校の校庭に掘られた防空壕
昭和10年代(滝野川第三小学校創立六十周年記念誌)
多くの児童が避難するため、各学校には長い防空壕がつくられた。



北区に残る防空壕
昭和10年代(令和7年撮影)
上)赤羽台さくら並木公園にて。入り口からは、だんだんと下っていく穴の様子が見える。
下)滝野川小学校前に残る防空壕。(中には入れません)



防空壕の作り方
昭和18年(1943)('写真週報')
各家ではゆか下や庭をほって防空壕をつくった。



空襲の被害

昭和17年（1942）4月18日に日本は最初の空襲を受けました（ドーリットル空襲）。アメリカ軍の飛行機B25が東京・横須賀・名古屋などに爆弾を落とし、北区では神谷、赤羽西、赤羽台、桐ヶ丘で低く飛びながら焼夷弾を落としました。

もともと空襲は、敵の基地や軍の工場などをねらって攻撃するものでしたが、次第に住宅や学校も無差別に攻撃されるようになりまし。また、飛行機から銃でねらう攻撃もたびたびあり、大人だけでなく子どもたちもねらわれました。

敵の飛行機がやってくるのがわかると、長いサイレンの警戒警報が鳴り、飛行機が接近し空襲警報になると、より大きな音で短いサイレンがくり返し鳴らされます。昭和19年（1944）になると東京での空襲は激しくなり、毎日のように警報が鳴らされました。翌年3月10日には、墨田区・台東区・江東区に多くの焼夷弾が落とされ、10万人以上が亡くなり、北区でも田端・西ヶ原に焼夷弾が落とされました（東京大空襲）。4月13日の夜中から翌日の朝には、豊島区・板橋区・荒川区・足立区、そして北区全域が大規模な空襲を受けました（城北空襲）。8月10日には十条仲原から赤羽西にかけて1トン爆弾が落とされました。赤羽西の香取神社では防空壕がつぶれて多くの人が亡くなりました。8月15日の終戦の5日前のことでした。

Fさん（当時17才） こわかったはじめての空襲

「昭和17年4月18日、女学校にいたときに、はじめて空襲を経験しました。空襲警報が鳴り出してすぐに敵の飛行機が飛んできました。そのころはまだ防空壕もなかったもので、先生の指示であわてて階段の下やげた箱のかげにかくれました。物干しざおでつつけば届きそうなくらい低空で飛んできたので、こわさとおどろきで女生徒たちはみんな泣いていました。」

Mさん（当時8才） 飛行機からねらわれる！

「昭和19年の春、袋国民学校から集団下校中に空襲警報になった。一人おかれてしまい、走って帰っていたが、浮間橋のところまで敵の飛行機から銃でねらわれてしまった。防空頭巾をかぶり浮間橋の柱にしがみついていたが、体のすぐそばをダダダッと撃って飛行機は遠ざかっていった。けがもせずに生きてるのが不思議な気がした。」

Hさん（当時12才） 必死でにげた城北空襲

「昭和20年4月13日の夜、警戒警報がでたと思ったらすぐに空襲警報に変わり、B29が飛んでくる音が聞こえてきた。飛び起きて防空頭巾をかぶり、非常食、教科書、衣類の入ったリュックをかついで家を飛び出した。まもなく焼夷弾が雨のように降ってきた。道ばたで亡くなっている人たちを見ながら、必死で姉たちと志茂の熊野神社の森ににげた。3月に学童疎開先から帰宅したばかりだったので（何のために疎開したんだろう、これじゃあ空襲にあうために疎開から帰ってきたようなものだ）と思った。」

Kさん （当時17才） 焼け野原の王子

「空襲のあと王子駅までいったところ、一面の焼け野原になっていて、足立区の方までよく見えた。横穴防空壕があった飛鳥山の上だけには、木々が焼け残っていた。」



城北空襲前の王子神社
昭和20年（1945）以前 大岡家提供
大鳥居の奥に立派な山門が写っている。大木が神社をかこんでいた。



終戦後まもない王子神社
昭和22年（1947）ころ 倉田正義氏撮影
空襲で山門や社殿、森などが焼けてしまったが、その後地元の人たちとともに社殿を再建した。写真右側に写っているのは、焼けずに残った大イチョウで、今も葉をしげらせている。



戦後の爆弾掘出し写真
昭和57年（1982）
東十条で発見された1トン爆弾。

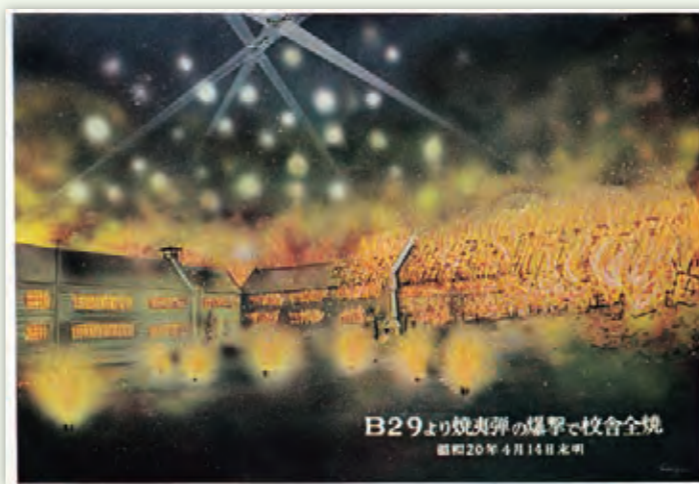
城北空襲で落とされた焼夷弾

昭和20年（1945）
北区で拾われ保管されたもの。発見されたときは、焼夷弾の落下姿勢を安定させるために付けられた麻布のリボンも残っていた。



空襲で家を焼かれたことの証明書と保管袋

昭和18～20年（1943～45）ころ
空襲で家や財産が燃えてしまった人は、隣組長から空襲被害を受けたことの証明書を受け取った。この証明書で、お米、みそ、しょう油などを受け取ることもできた。



関口五郎氏画「堀船小校舎全焼」
昭和40年代か（『堀船小学校50年誌』所収）
堀船国民小学校の卒業生が描いた、空襲の様子。焼夷弾により校舎が燃えている。上空からはアメリカ軍の飛行機B29から焼夷弾が落とされている。



北区の戦災焼失区域



凡例

- 焼失区域
- 建物疎開区域
- 爆弾投下区域 ×××

『真赤な空は忘れられない』(北区)所収
 「北区戦災区域図」および
 「滝野川区全図(建物疎開図)」より作成
 ※上記の各区域については不明な点が多
 数あります。本図は令和8年2月末
 現在わかる範囲で図示しています。





空襲の爪あと



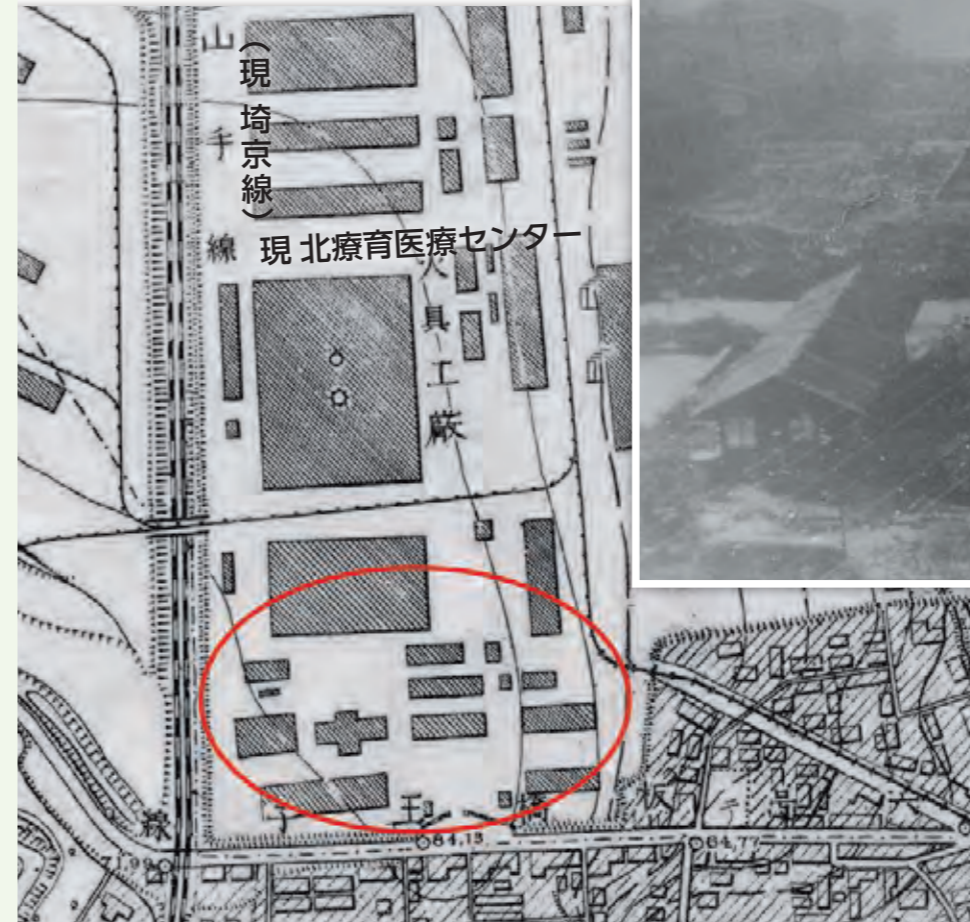
昭和22年(1947) 王子駅付近
(地図「王子」より)

空襲直後の王子駅前
昭和20年(1945)4月14日 石川光陽氏撮影
城北空襲のあとは王子から豊島方面にかけて焼け野原になっていた。
※赤線で囲った付近が撮影場所と思われる範囲。



空襲を受けた後の陸軍造兵廠内の建物
昭和20年(1945) 石橋幸一氏撮影
現在の北特別支援学校(十条台1-2)付近。
建物の土台だけが残る場所もある。

昭和22年(1947) 十条台付近
(地図「西巣鴨北部」より)



子どもたちの苦難

昭和19年(1944)になると、いよいよ東京への空襲が激しくなりました。そのため、同年6月30日、子どもたちの命を守るため、国民学校初等科児童の3年生から6年生までを都市部から安全な地方へ一時避難させることになりました(学童集団疎開)。地方に親せきがいる家はそれぞれ避難し、いない場合は学校ごとに集団で疎開することになり、8月中の疎開に向けて学校は準備に追われました。

東京都の学校の疎開先は関東地方のほか山形県や新潟県、長野県、山梨県におよびましたが、北区内の学校の疎開先は主に群馬県の寺や旅館でした。疎開先に着いたときは友好的に迎えられました。疎開先での生活が始まると遠慮気分は消えて、夜になるとさみしくなると布団のなかで泣く子どももいたようです。

疎開先での日々は厳しく、朝6時に起こされ、軍隊式の朝礼のあとは避難訓練やそうじ、マキ運びなどの作業が中心で、授業時間はわずかでした。また、疎開先でも食料は豊富とはいえず、主食の配給も少なくなると、子どもたちはいつもお腹をすかせていました。子どもたちは親との面会を待ちわびましたが、親も疎開先までたびたび出向くことはできず、会えない日々が続きました。



疎開先に到着した王子第二国民学校の児童たち
昭和19年(1944)
下仁田町に到着した児童たちは、下仁田町の青年団からもらったトウモロコシを手にして、笑顔を見せている。

- 一 集団疎開した滝野川国民学校
第三学年の児童のアンケートから
- 一 一番ウレシカッタ事
自家カラ面会人が来タ時
- 一 一番イヤナ事
朝ノカケ足ト午後ノタンレン
- 一 食事ニツイテ
飯ガ不足



疎開先の堀船国民学校の児童たち
昭和19~20年(1944-45)
同校の3年生男子は群馬県古巻村の神宮寺に疎開した。先生(前列中央)が記した日誌からは食料が十分でない様子が伝わってくる。



迫りくる戦火

疎開先での生活

昭和20年(1945)当時、滝野川国民学校(現在の滝野川小学校)6年生の児童が書いた「集団疎開大雲寺日記」から一部を紹介します。

昭和二十年

四月三十日 今日学校へ行ったら空襲警報になったので分散して山の木かげで勉強した。解じよになったので、教室へ入ったら再報が鳴ったので寮に帰った。午後せりを取りに行った。今日は田ゼリというのが、みんなで五かご取れた。大戦果。

六月十五日 今日の前中は*松根油の薪運びをやった。これもお国の為と思つたら、一ぱ背負えた。けれど重い。背中の皮がすりむけた。かなわない。午後は一部は島の草取り、残りはなっぱ洗いをやった。僕達は岡穂の島の草むしりをやった。

七月十日 今日の前は行事をやっていたら空襲になって高射砲の音がしたので、山へたいひしたが、ふたたび空襲になったので、班ごとに二列になって五十米の間をおいて寮へ帰った。午後は昼寝をした。又空襲になった。このごろはよく空襲があるのでめんどくさい。

*松根油：松の根から得られる油。太平洋戦争中、政府は松根油を航空機の燃料として代用しようと、学生や女性・子ども・高齢者まで動員して松の根を集めた。



文集「鍋屋の皆様へ」
昭和20年(1945)2月 中之条町歴史と民俗の博物館「ミュゼ」所蔵
『戦争中の子どもたち』(北区教育委員会)より転載
滝野川第二国民学校6年生が3月の卒業を前に疎開先である鍋屋旅館への感謝の気持ちをまとめた文集。疎開の日々の思い出や戦勝を願う気持ちが絵と文でまとめられている。

王子区・滝野川区の学童集団疎開先

(疎開先はほとんど群馬県でした。滝野川区の一部のみが静岡県沼津市に疎開しました。)

◆王子区

国民学校名	疎開先所在地	疎開先
王子	多野郡神流村	観音寺
	多野郡小野村	泉通寺
	多野郡藤岡町	西蓮寺
	多野郡藤岡町	天竜寺
	多野郡藤岡町	成道寺
	多野郡藤岡町	良信寺
	多野郡藤岡町	龍源寺
	多野郡美土里村	宗永寺
王子第一	勢多郡東村	祥禅寺
	勢多郡黒保根村	常鑑寺
	勢多郡宮城村	金剛寺
	勢多郡粕川村	龍源寺
	勢多郡粕川村	東寿寺
	勢多郡粕川村	竜光寺
	勢多郡粕川村	千手院
	勢多郡大胡町	長興寺
王子第二	北甘楽郡下仁田町	新杉原館
	北甘楽郡下仁田町	下仁田館
	北甘楽郡下仁田町	常盤館
	北甘楽郡富岡町	美濃屋
	北甘楽郡富岡町	源氏
	北甘楽郡富岡町	万屋
王子第三	群馬郡伊香保町	森秋館
	群馬郡伊香保町	塚越館
	群馬郡伊香保町	粕屋
	勢多郡富士見村	長桂寺
	群馬郡豊秋村	光運寺
	群馬郡金島村	宗光寺
	群馬郡伊香保町	丸本
	群馬郡伊香保町	粕屋
王子第四	群馬郡渋川町	真光寺
	群馬郡渋川町	林徳寺
	群馬郡渋川町	良珊寺
	群馬郡渋川町	正蓮寺
王子第五	群馬郡伊香保町	福一
	群馬郡伊香保町	香月館
	群馬郡伊香保町	市川旅館
	群馬郡伊香保町	油屋
	群馬県伊香保町	叶屋
	群馬県伊香保町	立花屋
王子赤羽	群馬郡伊香保町	大森館
	群馬郡伊香保町	青山旅館
	群馬郡伊香保町	金田屋
	群馬郡伊香保町	丸本旅館
	群馬郡伊香保町	立花屋
	群馬郡伊香保町	ふじのや
	群馬郡伊香保町	叶屋
	群馬郡伊香保町	油屋
	群馬郡伊香保町	福善旅館
	勢多郡黒保根村	常鑑寺
	勢多郡黒保根村	医光寺
	勢多郡東村	祥禅寺
	群馬郡伊香保町	石坂
	群馬郡伊香保町	青山
豊川	勢多郡桂萱村	竜沢寺
	勢多郡桂萱村	玉蔵院
	勢多郡南橋村	日輪寺
	勢多郡南橋村	宝林寺
	勢多郡大胡町	長善院
	勢多郡大胡町	金蔵院
	群馬郡総社町	光蔵寺
	群馬郡総社町	元景寺

国民学校名	疎開先所在地	疎開先
荒川	勢多郡黒保根村	梨木館
堀船	勢多郡富士見村	大聖寺
	群馬郡古巻村	竜伝寺
	群馬郡古巻村	神宮寺
	勢多郡北橋村	雙玄寺
	勢多郡横野村	宗玄寺
	勢多郡横野村	興禅寺
	群馬郡豊秋村	光運寺
	北甘楽郡下仁田町	常住寺
	北甘楽郡下仁田町	中村屋
柳田	群馬郡伊香保町	岸権
	群馬郡伊香保町	石坂旅館
	群馬郡伊香保町	金太夫
	群馬郡伊香保町	福善
	群馬郡伊香保町	吉田屋
	多野郡多胡村	仁叟寺
下十条	群馬郡伊香保町	干明
	群馬郡伊香保町	金太夫
	群馬郡伊香保町	ふじのや
	群馬郡伊香保町	新井屋
	群馬郡伊香保町	木村屋
	多野郡小野村	崇近寺
	多野郡神流村	観音寺
姥ヶ橋	群馬郡伊香保町	古久屋
	群馬郡伊香保町	村松旅館
	群馬郡伊香保町	市川
	北甘楽郡下仁田町	常住寺
清水	群馬郡伊香保町	横手館
	群馬郡伊香保町	新井屋
	群馬郡伊香保町	吉田屋
	群馬郡伊香保町	金田屋
	勢多郡桂萱村	竜沢寺
	勢多郡桂萱村	玉蔵院
岩淵	群馬郡室田町	榛名協会(7件)
	群馬郡室田町	下室田第一
	群馬郡室田町	下室田第二
	群馬郡室田町	滝不動
	群馬郡久留馬村	長信寺
	群馬郡久留馬村	高源寺
	北甘楽郡富岡町	永心寺
	北甘楽郡富岡町	金剛院
	北甘楽郡富岡町	寿福寺
第二岩淵	北甘楽郡小幡町	宝積寺
	北甘楽郡小幡町	長厳寺
	北甘楽郡小幡町	福厳寺
	北甘楽郡小幡町	興厳寺
	北甘楽郡新屋村	向陽寺
	多野郡吉井町	愿行寺
	多野郡吉井町	法林寺
	多野郡多胡村	仁叟寺
第三岩淵	群馬郡伊香保町	木暮旅館
	群馬郡伊香保町	木村屋
	群馬郡伊香保町	大森
	群馬郡伊香保町	香月
	北甘楽郡下仁田町	下仁田館
	多野郡吉井町	玄太寺
第四岩淵	多野郡平井村	仙蔵寺
	多野郡平井村	高源寺
	多野郡平井村	常光寺
	多野郡鬼石町	神水館
	多野郡鬼石町	浦部館
	多野郡鬼石町	八塩館

◆滝野川区

国民学校名	疎開先所在地	疎開先
滝野川	静岡県獅子浜	本能寺(静岡県立沼津学園)
	吾妻郡沢田村	四万館
	吾妻郡沢田村	竹葉館
	吾妻郡坂上村	大運寺
滝野川第一	吾妻郡原町	原町公会堂
	吾妻郡原町	古久家
	吾妻郡名久田村	宗学寺
	吾妻郡沢田村	賽陵館
	吾妻郡沢田村	田村別館
滝野川第二	吾妻郡沢田村	田村旅館
	吾妻郡中之条町	竹廼舎
	吾妻郡中之条町	鍋屋
滝野川第三	吾妻郡沢田村	鐘寿館
	吾妻郡高山村	雙松寺
滝野川第四	吾妻郡沢田村	積善館
	吾妻郡沢田村	宗本寺
	吾妻郡沢田村	日の丸館
滝野川第五	吾妻郡沢田村	山口館
	吾妻郡沢田村	白岩館
	吾妻郡沢田村	流石館
	吾妻郡沢田村	豊島屋
	吾妻郡高山村	法信寺
滝野川第六	吾妻郡沢田村	賽陵館
	吾妻郡高山村	泉竜寺
滝野川第七	吾妻郡沢田村	積善館
	吾妻郡原町	顕徳寺
滝野川第八	吾妻郡沢田村	三木屋
	吾妻郡名久田村	林昌院
滝野川谷端	吾妻郡沢田村	玉泉館
	吾妻郡沢田村	中生館
	吾妻郡沢田村	日向見館
	吾妻郡沢田村	石塚館
	吾妻郡沢田村	三福寺
滝野川田端新町	吾妻郡沢田村	永林寺
	吾妻郡沢田村	丸本旅館
	吾妻郡沢田村	竜鳴館
	吾妻郡沢田村	万屋
	吾妻郡沢田村	積善館
	吾妻郡沢田村	田村旅館

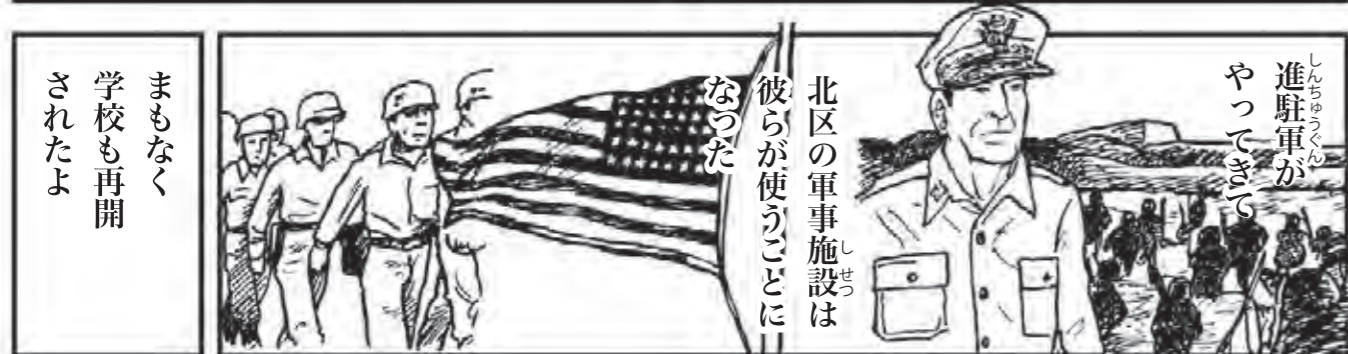
あと 第3章 焼け跡からの出発

まんがでたどる北区と戦争 第3話



戦争が
終わっ
たら
焼け野原
で：

何も
残って
いなかった



進駐軍が
やってきて

北区の軍事施設は
彼らを使うことになっ
た

まもなく
学校も再開
されたよ



青空教室
だったけど

いちばん
最初に

やった
のは
教科書の

スミぬり
だよ

戦争に
関係する
内容を

全部筆で
ぬりつぶして
使ったんだ



近所のお兄さん
は…戦地から
帰って
こなかった

あの頃は

とにかく
食べ物が
なかったなあ…



配給だけ
では
間に合わ
なくて、
みんな
畑をつく
つたよ

お母さんたちは
田舎へ行って
ヤミ米を
手に
入れたり
してた

でも、駅で
没収されたりして
たいへんだっ
たよ

09

B29

10

焼夷弾

アメリカのそれまでの爆撃機に比べ、より速く(約6400km)高く(約1.2万m)速く(約640km)飛べ、大量の爆弾を落とし日本を攻撃した戦略爆撃機。昭和20年(1945年)3月10日の焼夷弾等による東京大空襲ををはじめ大阪、名古屋、地方中小都市を次々爆撃、広島、長崎に原子爆弾を投下。その銀色に輝く機体、四発エンジンの轟音に人々はおののき、戦意を失わせたとされます。開発はボーイング社で製造は他二社。スーパーフォートレス、空の要塞と言われました。

木造の家が多かった日本を攻撃するために、アメリカが開発した兵器です。もっとも多く使われたM69油脂焼夷弾は、ナパームという燃えやすいゼリー状のガソリンをつめた長さ約50センチの筒型をしていました。空襲のとき、焼夷弾は計38本をたばねた状態で飛行機(B29)から落とされました。落下する途中でばらばらになり、広い範囲に散らばった焼夷弾は、屋根を突き破って家の中で発火し、激しい火災を起こしました。油は水では消火しにくく、砂やぬれたむしろをかぶせる必要があります。東京大空襲や城北空襲では大量の焼夷弾が落とされ多くの人が火災で亡くなりました。

11

建物疎開

空襲のときに火災が燃え広がらないようにし、また、消火活動を行いやすくするため、建物をこわして空き地(防火帯)をつくりました。強制的に建物をこわすので強制疎開ともいいます。北区では、昭和19年(1944)ころから建物疎開が開始され、王子駅から荒川(今の隅田川)に至る幅50メートル・長さ1500メートルの防火帯をつくったほか、赤羽駅東口や線路沿い、軍施設の周辺などを中心に建物疎開が行われ、多くの家を取りこわされました。(32・33ページ参照)建物疎開に指定された家には、数日前に通知が届き、拒否することはできませんでした。家具や障子などを運び出した後、柱にロープをかけて人力で引き倒しました。

12

東京大空襲

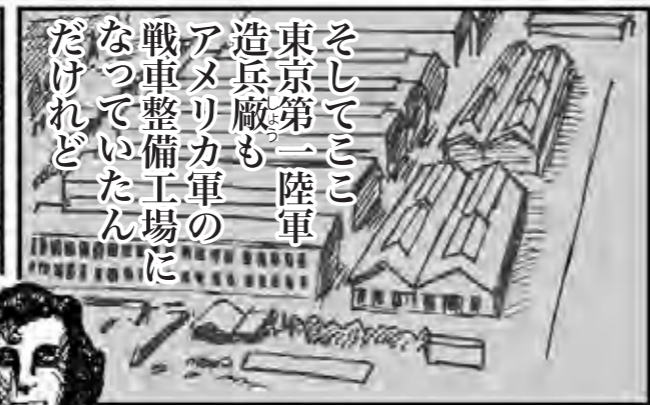
昭和20年(1945)3月10日の夜中、東京東部の江東区・台東区・墨田区を中心とした下町地域は大規模な空襲を受けました。520機のB29が住宅街をねらって大量の焼夷弾を落とし、下町のほとんどを焼きつくしました。約27万戸の建物が火災によって焼け、多くの人が逃げ込んだ学校や公園などの避難所も火災に会い、9万5000人を超える人が亡くなりました。北区からも、上野の方の空が空襲で明るくなって見えたのが見え、飛行機から落とされた焼夷弾がキラキラ光っているのが見えたと話す人もいます。上野に近い田端や西ヶ原の一部も火災の被害を受けました。



昭和56年(1981)



進駐軍に使われていた建物も、返還されていったんだ



そしてここ東京第一陸軍造兵廠も、アメリカ軍の戦車整備工場にだけ残った

北区は平和都市宣言をするんだ

真の平和と安全を実現することは、私たちの願いであるとともに、人類共通の悲願でもあります。

私たちは、日本国憲法に掲げられた恒久平和の理念に基づき、平和で自由な共同社会の実現に向けて努力しています。

人間のめくもりを感じるふるさと、美しい自然をこれから生れ育つ子ども達に伝えることは、私たちに課せられた大きな責務であります。

私たちは、わが国が非核三原則を堅持することを求めるとともに、心から世界の恒久平和と永遠の繁栄を願いつつ、ここに北区が平和都市であることを宣言します。

昭和61年3月15日

東京都北区

北とぴあ前の平和祈念像に刻まれてるね!



昭和61年(1986)

北和 西望氏



闇市から



そして

昭和22年(1947) 3月15日

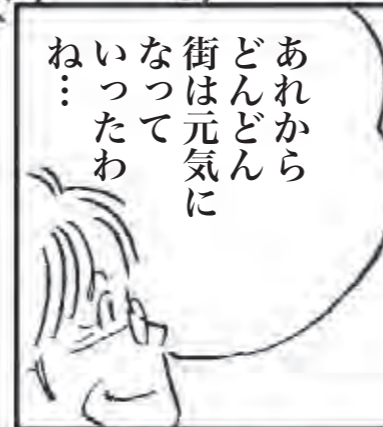


昭和21年(1946) 11月3日 公布された『日本国憲法』が

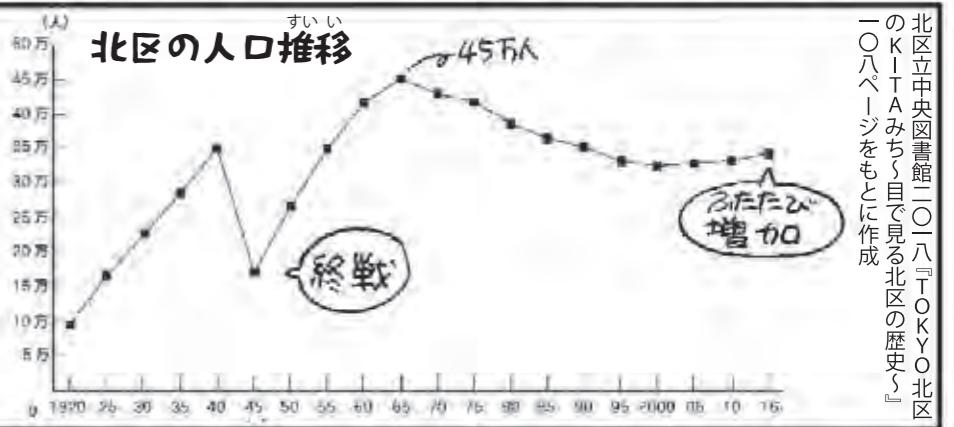
平和主義



少しづつ商店街もにぎやかに なっていったのよね



あれからどんだん街は元気に なっていったわ



北区立中央図書館二〇一八「TOKYO北区のKITAみち」目で見える北区の歴史」一〇八ページをもとに作成



昭和35年(1960) 北区役所庁舎完成



戦後の苦しい生活

連日の激しい空襲や広島・長崎への原爆投下を受けて、ついに昭和20年（1945）8月15日、ラジオを通じて天皇が太平洋戦争の終わりを肉声で伝えました（玉音放送）。

ところが、戦争が終わっても戦時中から続いていた物資不足は、さらに深刻になりました。配給制度は続きましたが、配給のおくれや品切れがたびたび起こり、配給だけでは生きのびられないほどでした。当時の滝野川区でも区民に家庭菜園を作るようにすすめたり、食べられる野草の種類を伝えたりしましたが、まったく足りませんでした。

当時は配給以外の方法で米などの食料品を手に入れることは禁じられていましたが、それでも人々は地方へ足を運び、農家から直接買ったたり、手持ちの品物と交かんするなどして食料品を手に入れました（買い出し）。地方への玄関口となる上野駅や赤羽駅は、買い出し帰りの大きな荷物を背負った人びとでも混みあっていました。

また、赤羽駅の東口側には、終戦直後から露店の店が並びはじめ、やがて多くの店が集まるマーケット（闇市）となりました。闇市にはさまざまな物が売られていましたが、値段は日に日に高くなり、人々の苦しい生活は数年続きました。



学校の再開

終戦後、昭和20年（1945）10月ごろから学童集団疎開の子どもたちは東京にもどってきました。しかし、子どもたちが目にしたのは焼け野原になって変わり果てた町でした。

北区内では学校も空襲にあり、半数近くの国民学校が焼失していました。そのため、終戦後はしばらく別の学校の教室などを借りて授業を再開しました。子どもたちの数は年々増えていきましたが、校舎の再建が間に合わず、午前と午後の二部に分けて授業を行う学校もありました。

学校の授業の内容も大きく変わりました。戦争や軍に関する内容はすべてけずられて、民主主義と平和な社会を目指す内容になりました。修身や国史などの教科書は回収され、国語と算数の教科書は戦争に関する部分を墨で黒く塗りつぶして使いました。子どもたちにとって、それまで信じていた内容をぬりつぶすのは、とまどいの多い作業だったことでしょう。

また、戦後の深刻な食料不足から弁当を持ってこれない子どもたちが多くいたため、アメリカ軍や国際連合（国連）からの援助を受けて昭和22年（1947）から学校給食が始まりました。はじめは脱脂粉乳と汁物だけでしたが、その4年後には本格的な学校給食が始まり、子どもたちの成長を助けました。

空襲で焼失した国民学校

	国民学校名	備考
王子区	王子第三	約四分の三の校舎を焼失（5/25の戦災）
	王子第四	廃校となる
	王子第五	仮事務所を王子第三国民学校を借りる
	豊川	仮事務所を王子第一国民学校に置く
	堀船	事務所を王子高等国民学校に置く
	下十条	廃校となる
	第二岩淵	太子堂で授業
滝野川区	柳田	廃校後復活する
	姥ヶ橋	廃校となる
	滝野川第一	滝野川国民学校で授業
	滝野川第三	
	滝野川第四	仮校舎を滝野川東国民学校（現田端中）に設ける校務を区役所とする
	田端新町	廃校となる
	田端第五	滝野川国民学校で授業
	田端第七	廃校後復活する
田端第八	残留児童滝野川国民学校に収容する西ヶ原小と校名変更する	
谷端	天理教会で授業	

※『北区教育史 通史編』（北区教育委員会）298頁 表VI-11より転記



王子第三小学校 昭和26年（1951）頃
同校は昭和20年5月25日の空襲で校舎の約三分の二を焼失。もとは2階建てだったが、戦後は1階建ての校舎を増築した。



学校給食 昭和26年（1951）頃
子どもたちは脱脂粉乳とパン、皿の半分くらいのおかずを大切に食べている。



終戦翌日の新聞
昭和20年（1945）8月16日 日本産業経済
終戦翌日の新聞には、玉音放送のあと皇居の二重橋前で泣き崩れる人々の姿が掲載されている。



旧軍用地で家庭菜園作り
昭和21年（1946）頃 渡辺 肇氏撮影
食料不足のため赤羽台や桐ヶ丘付近の旧軍用地は家庭菜園として利用された。



代用品のお玉
昭和20年代
さまざまな材料が不足していたため、軍隊から払い下げられた金属のほか、手に入りやすい安価な材料で代用された。

買い出しの女性
昭和21年（1946）頃
渡辺 肇氏撮影
買い出しで得た食料品は警察に見つかると没収されるので、列車の窓から荒川河川敷に荷物を落として隠す人も多かった。米袋がたくさん落ちていることから「赤羽は米の産地」といわれた。



墨ぬり教科書
昭和18年（1943）
国民学校初等科5年生の後期で使った『初等科国語 六』の教科書。終戦後は大半を墨で塗りつぶすことになった。



焼け跡からの出発

引き揚げ者の苦勞

終戦により、海外にいた日本人は帰国をめざしました。兵士や市民など、その数は約660万人にのぼりました。兵士が日本にもどることを「復員」、普通の市民については「引き揚げ」といいます。とくに中国大陸には多くの日本人がいましたが、日本が戦争に負けたことにより、家や畑は現地に残して、リュックサックにつめた荷物を背に、日本を目指しました。とちゅうでおそれたり、捕虜になってロシア北部のシベリアの収容所へ送られ、帰国できずに亡くなった人も多くいました。

必死の思いで日本に帰国することができても、わずかな財産しか持たず、住む家もない人が多くいました。桐ヶ丘にあった陸軍の火薬倉庫（火薬庫）の建物は、昭和21年（1946）から引き揚げ者の住まいとして使用されました。土手に囲まれ、水道もない倉庫建物での暮らしは、苦勞も多かったことでしょう。それでも入居した人たちは、ここを第二のふるさととして「赤羽郷」と呼び、協力しあって生活しました。

昭和32年（1957）から桐ヶ丘団地の建設がはじまり、赤羽郷の住民はだんだんと団地へ移りました。引き揚げ者や復員兵だけでなく、国内でも空襲で家を失った人は多く、住宅不足は大きな問題だったのです。桐ヶ丘団地は20年以上かけて建設され、5000以上の家族が住むマンモス団地となりました。



焼け跡からの出発

軍用地の解放と返還

敗戦国となった日本は、アメリカなどの連合国軍によって占領されました。連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）は、日本の民主化を目指し、日本軍を解散しました。北区では、日本軍が区の面積の約10パーセントの土地（軍用地）や建物を使っていたのですが（53ページ参考）、赤羽台の軍用地は戦後もなく、学校や病院、住宅地となり、人びとの生活をよこしました。

そのほかの軍用地の多くは、アメリカ軍が管理する東京兵器補給廠（TOD）となりました。赤羽自然観察公園は、もとは日本陸軍の兵器倉庫（兵器補給廠）だった場所で、戦後はアメリカ軍の戦車修理所となりました。また、陸軍被服本廠だった場所は、アメリカ軍人の住宅地となり「赤羽ハイツ」と呼ばれました。アメリカ軍の施設や住宅で働く日本人も必要となり、北区の人びとにとっては新たな働き口となりました。

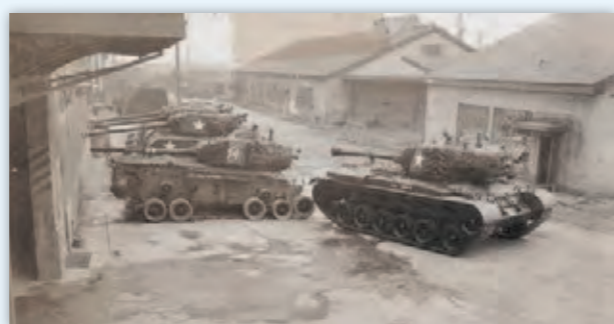
北区は何度も返還を求め、軍用地は日本に返還されていきました。最後まで残ったのは、キャンプ王子と呼ばれた、いまの中央公園文化センター周辺です。アメリカがベトナムと戦争をはじめると、地元の人たちが反対するなか、昭和43年（1968）に野戦病院が開かれましたが、3年後に日本への返還が実現しました。

軍用地の返還と跡地利用（番号は53ページの図と対応）

番号	日本軍が使っていたところ	アメリカ軍による占領	日本への返還※	跡地のおもな利用
1～5	工兵隊関係		昭和20年代前半	星美学園、都営住宅、病院、中学校、公園
6	陸軍兵器補給廠赤羽火薬庫		昭和20年代前半	赤羽郷、都営住宅→桐ヶ丘団地ができる
7	陸軍被服本廠	TOD 3地区 米軍住宅	昭和33年	赤羽台団地（ヌーヴェル赤羽台）、小・中学校
8	陸軍兵器補給廠	TOD 1地区 兵器補給廠	昭和37年	高校、都営住宅、電話局
9	稲付射場	TOD 2地区 戦車修理所	昭和33年	十条自衛隊赤羽分屯地→赤羽自然観察公園となる
10	東京第一陸軍造兵廠十条工場	TOD 4地区 極東陸軍地図局など →王子野戦病院	昭和20年代 昭和30年代 昭和46年	都営住宅 陸上自衛隊十条駐屯地、中学校→中央図書館ができる 中央公園、都立北療育医療センター
11	東京第二陸軍造兵廠王子工場		昭和30年代	中学校、高校、税務署、警察署
12	東京第二陸軍造兵廠堀船倉庫		昭和20年代	倉庫、学校、民間工場
13	東京第一陸軍造兵廠滝野川工場		昭和20年代後半	都営住宅、病院、四本木稲荷神社
14	東京第一陸軍造兵廠尾久工場		昭和20年代前半	工場、住宅
15	東京第二陸軍造兵廠板橋工場	TOD 5地区 米軍板橋射場	昭和28年	中学校、東京家政大学



キャンプ王子の野戦病院
昭和43年（1968）3月18日撮影
アメリカ国立公文書館所蔵
背後に写る白い建物が現中央公園文化センターの建物です。



TOD 2地区の戦車修理所
昭和30年（1955）9月6日撮影 アメリカ国立公文書館所蔵
左の戦車は修理前、右の戦車は修理後。



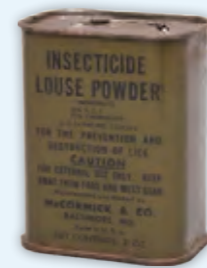
引き揚げ時のリュックサック
昭和20年代
引き揚げ時に全財産を詰め込んだリュックサックは、日本に戻ってからは、食料の買い出しでも活躍した。使用することはなくなっても、捨てずに大切に保管した。



赤羽郷で毛布を受け取る引き揚げ者
昭和21年（1946）ころ 渡辺 肇氏撮影
壁に「引揚のみなさんご苦勞様でした」「東京都外地引揚者定着寮」とはり出されている。ここから新しい生活がスタートした。



赤羽郷
昭和20年代 渡辺 肇氏撮影
火薬倉庫は土手に囲まれ、トンネルを通って行きました。倉庫1棟に8～10世帯が暮らした。



シラミ駆除剤 DDT
昭和20年代
引き揚げ者は、帰国するとまずシラミ駆除剤を浴び、髪が真っ白になった。



引き揚げ者に配られたふろしき
昭和20年代
「祝御帰還」と染めぬかれている。日本に帰国できなかった人たちも多かった。



北区の成立と平和都市宣言

昭和21年（1946）11月3日に、あたらしい日本国憲法が公布されました。まだ食べ物や住むところに苦勞し、出征した父や兄を待つ家族も多かった時でしたが、もう二度と戦争はしないことをちかい、あたらしい日本をつくるための、焼けあとからの再出発でした。翌22年3月15日には、王子区と滝野川区がひとつになり、北区が誕生しました。

昭和26年（1951）9月、日本と連合国との間で、サンフランシスコ講和条約が結ばれ、翌27年4月に、7年間におよびる連合国軍による占領が終わりました。なお、サンフランシスコ講和条約と同時に、アメリカと日米安全保障条約を結び、アメリカ軍は引き続き日本に残ることになりました。

昭和61年（1986）3月に、だれもが平和で自由な社会をめざして、北区は平和都市であることを宣言します。みなさんも、戦争について学びながら、ぜひ平和についても考えてみてください。

平和都市宣言

真の平和と安全を実現することは、私たちの願いであるとともに、人類共通の悲願であります。私たちは、日本国憲法に掲げられた恒久平和の理念に基づき、平和で自由な共同社会の実現に向けて努力しています。

人間のぬくもりを感じるふるさと、美しい自然をこれから生れ育つ子ども達に伝えることは、私たちに課せられた大きな責務であります。

私たちは、わが国が非核三原則を堅持することを求めるとともに、心から世界の恒久平和と永遠の繁栄を願いつつ、ここに北区が平和都市であることを宣言します。

昭和61年3月15日
東京都北区

中央図書館の開館

赤レンガ部分は、鉄砲の弾の部品をつくる工場として大正8年（1919）に建てられた建物です。北区に残る数少ない軍の建物を保存・活用するため、2年間かけて工事し、平成20年（2008）に北区立中央図書館として開館しました。館内には建物を説明するコーナーやパネルがあります。



中央図書館への工事前の様子

column コラム



13

玉音放送

昭和20年（1945）8月15日正午、ラジオを通して、天皇が太平洋戦争を終えることを国民に伝えました。「玉音」とは天皇の声のことで、放送前夜に皇居でレコード録音されました。前日から15日正午に重大な発表があるとラジオでくり返し伝えられ、当日はラジオの前で正座をして放送を聞いた人がたくさんいました。その内容は難しく、わかりにくいものですが、国民は天皇の肉声で日本が降伏することを知り、多くの人が涙を流しました。



15

ティーオーデー TOD (Tokyo Ordnance Depot)

敗戦となり旧軍用地は国有地となりましたが、およそ半分が東京兵器補給廠（TOD）という在日アメリカ軍が駐屯して管理する施設地となりました。TOD第一地区は西が丘三丁目、第二地区は赤羽西五丁目、第三地区は赤羽台一・二丁目、第四地区は十条台一丁目、王子本町三丁目、第五地区は十条台二丁目と上十条三丁目の一部でした。これらの土地はだんだんと解放され、最後に解放されたのは第四のキャンパ王子と言われた地区で、アメリカ軍野戦病院が設けられました。廃止運動が高まり昭和47年（1972年）に返還されました。現在の区立中央公園となります。

14

闇市（ヤミ市）

戦争が終わっても、配給制度以外の方法で食料や物資を手に入れることは禁じられていましたが、配給そのものが当てにならなくなっていました。すると、空襲の焼け跡や建物疎開でできた空地などには直接モノを売る露店が集まるようになり、闇市（ヤミ市）と呼ばれました。闇市では配給で手に入らない食べ物や生活用品などが売られており、人々が生活していくためには必要な存在でした。北区では赤羽や王子の駅前に闇市がありました。

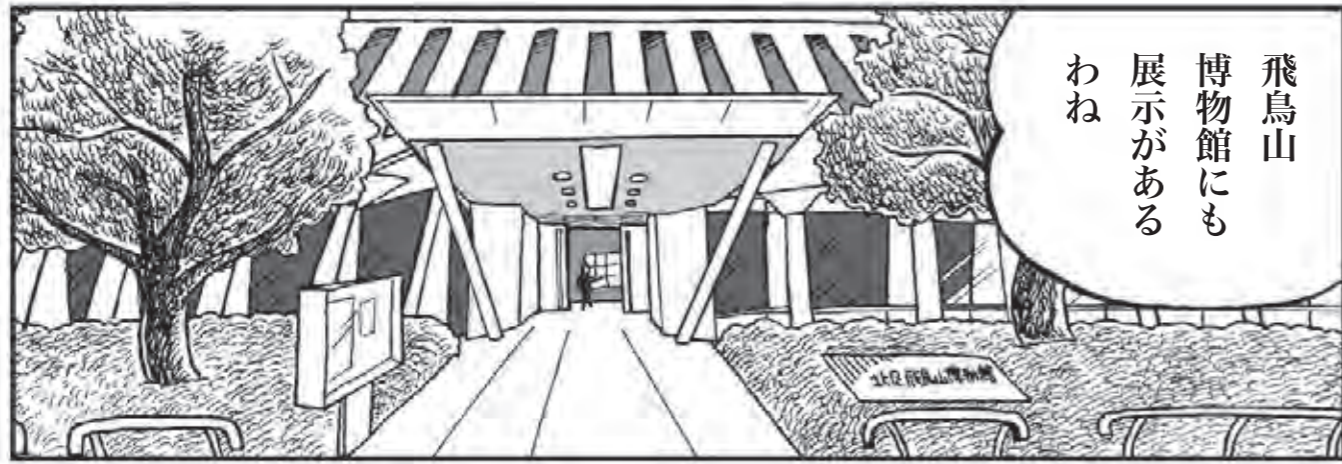


闇市から発展した赤羽駅前の商店街
昭和26年（1951）手川文夫氏撮影

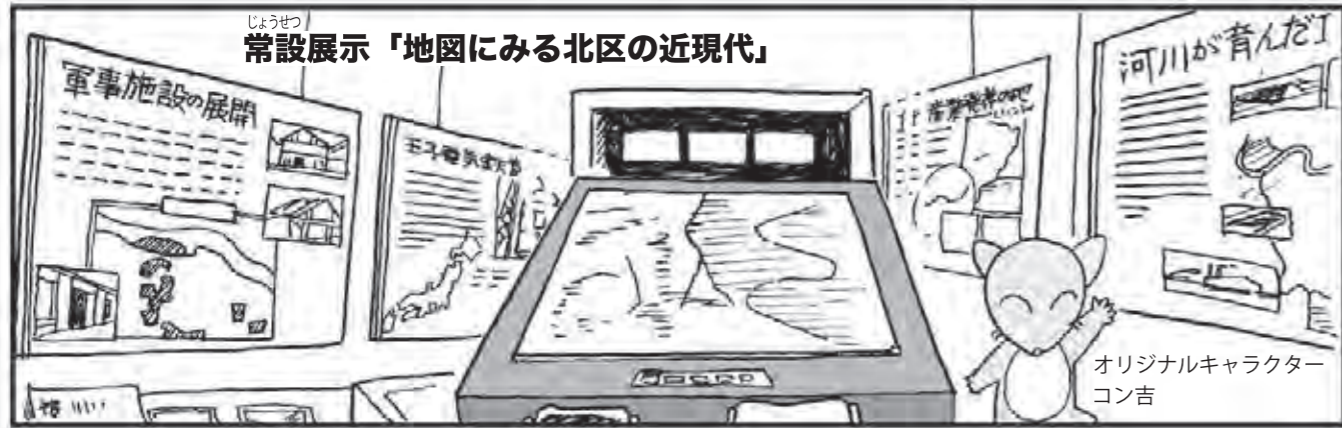
16

軍用地解放

旧軍用地の面積は北区の約10%もありました。その半分はアメリカ軍の東京兵器補給廠となり解放に時間がかかりましたが、赤羽の台地側にあった地域は戦後早くに解放されました。星美学園や国立王子病院（現・東京北医療センター）、桐ヶ丘団地などが次つぎにつくられました。また王子3丁目交差点より北東方向の東京成徳大学高校の角までの土地は昭和20年代後半に解放され、都立北高校（現・飛鳥高校）や駿台学園中・高校がつくられました。



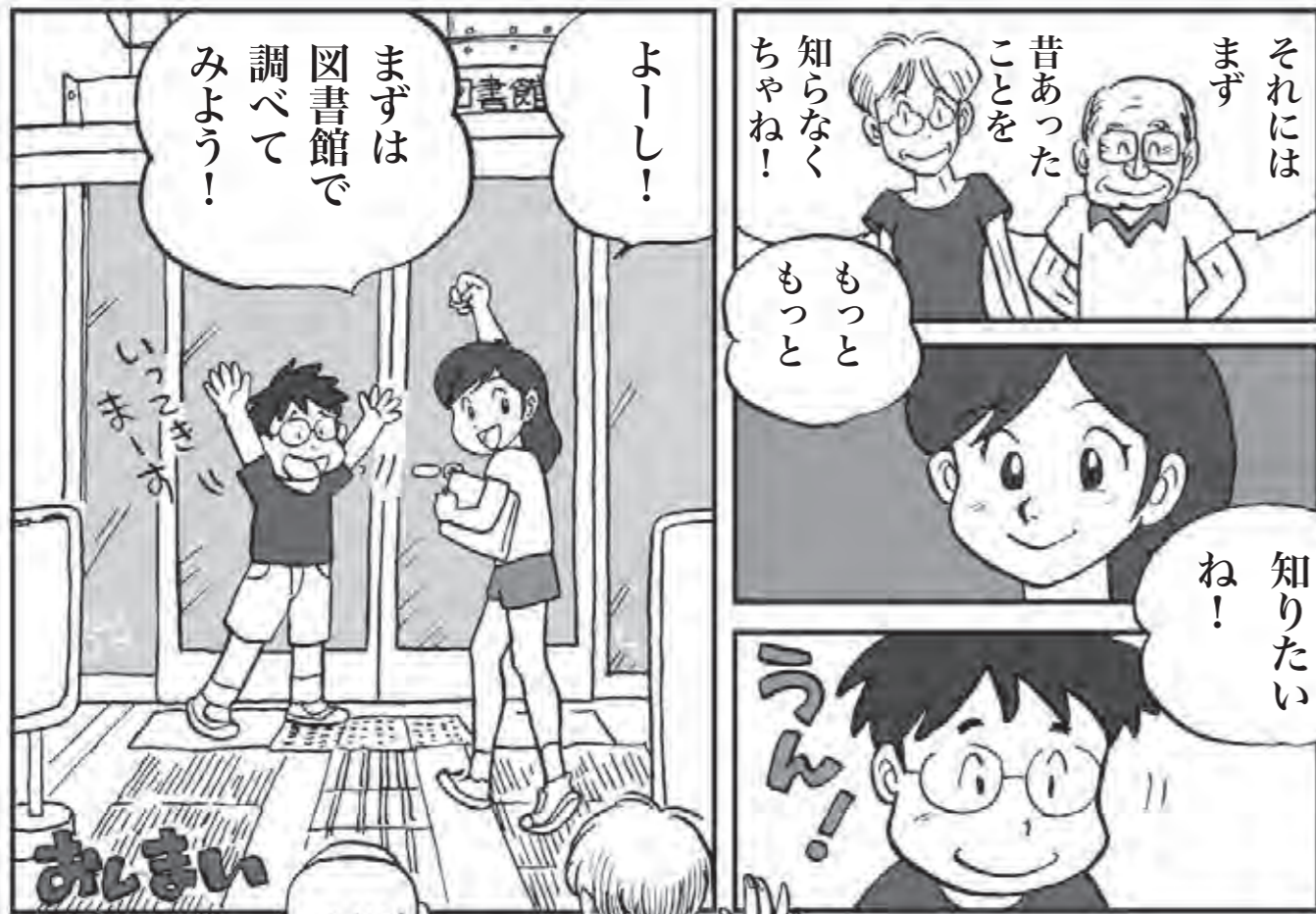
飛鳥山
博物館にも
展示がある
わね



常設展示「地図にみる北区の近現代」

オリジナルキャラクター
コン吉

8月15日— 80年前のこの日、終戦。この平和が続きますように。



まずは
図書館で
調べて
みよう！

よーし！

それには
まず
昔あった
ことを
知らなく
ちやね！

もっと
もっと

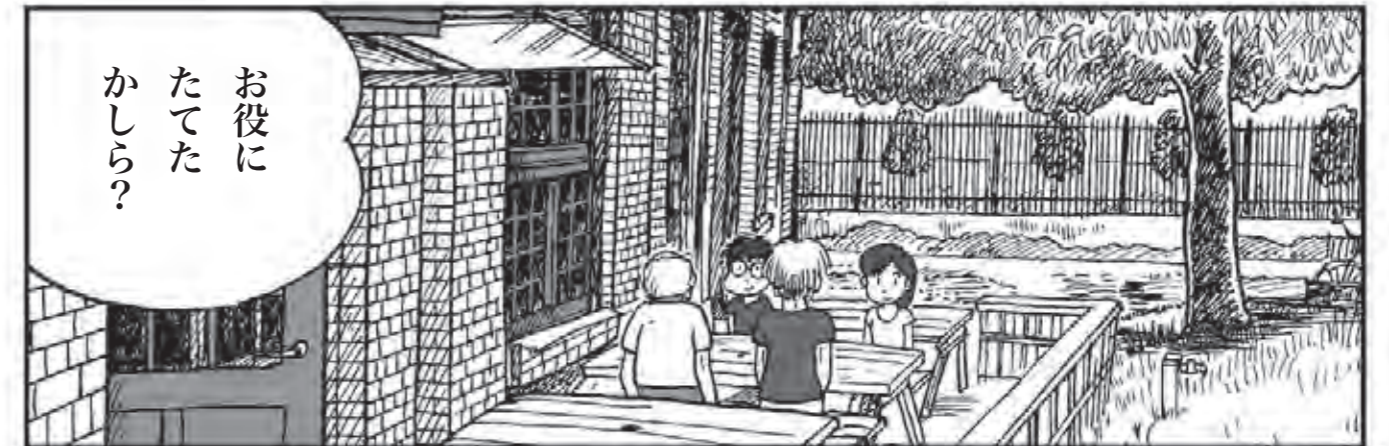
知りたい
ね！



うん！

平和な未来へむかって

まんがでたどる北区と戦争 エピローグ



お役に
たてた
かしら？

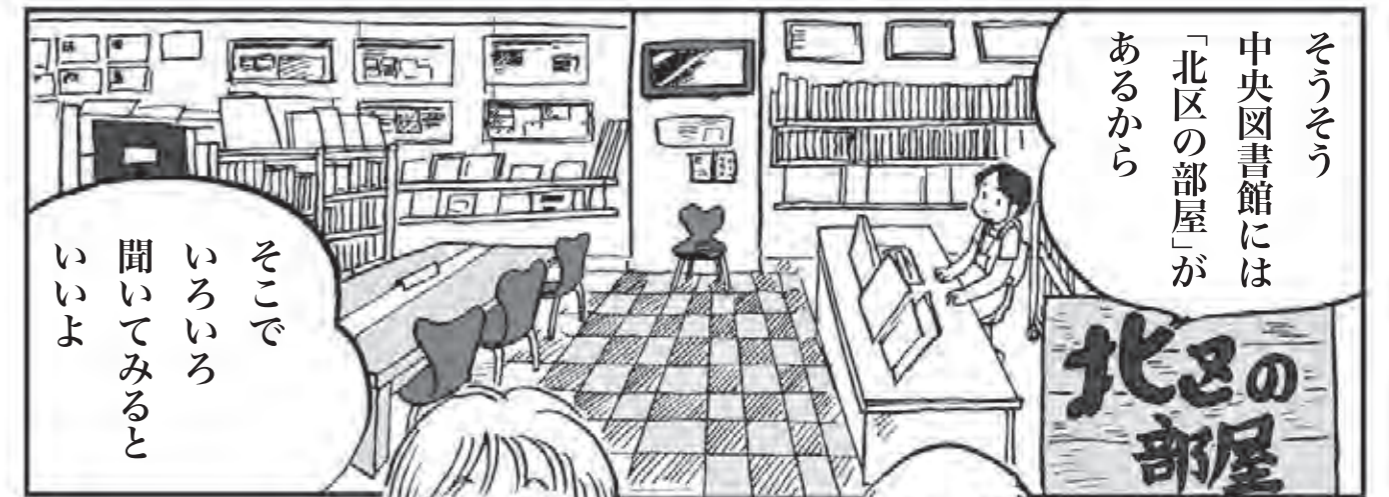


どう
いたしまして



ありがとう
ございました！

ありがとう
ございました！



そうそう
中央図書館には
「北区の部屋」が
あるから

そこで
いろいろ
聞いてみると
いいよ



キーンさんの
お部屋も
あるわよ

ドナルド・
キーンさん

和暦	年	西暦	北区	日本と世界の動き
明治	5	1872	赤羽の台地上に陸軍の火薬庫が設置される	
	10	1877	滝野川村（現在の滝野川1〜7丁目あたり）で火薬工場の建設が始まる	
	20	1887	近衛工兵隊・第一師団工兵第一大隊が大手町から赤羽台に移転する	
	24	1891	赤羽台に軍服などを扱う被服廠の倉庫が完成する	
	27	1894	西ヶ原に海軍の下瀬火薬製造所が建てられる（1931年京都府舞鶴市へ移転）	
	32	1899	王子の火薬製造所が豊島に六万坪の用地を取得し拡張する（貯弾場）	
	37	1904	東京砲兵工廠銃包製造所（弾丸を作る工場）が十条台（現在の北区中央公園、十条駐屯地付近）に移転する	
	38	1905	板橋火薬製造所が稲付に射撃場を設置する	
大正	3	1914	本所区（墨田区）にあった陸軍被服本廠が赤羽に移転する	第一次世界大戦が始まり、日本も参戦する（1918年11月終結）
	8	1919		国民の行動を制限する治安維持法が定められる
昭和	6	1931	王子区・滝野川区ができる	中国の柳条湖近くで「南満州鉄道」が爆破される《満州事変》
	7	1932	王子区防護団（防災活動を行う団体）の発団式が行われる	海軍将校たちが首相官邸を襲って大餉毅首相を暗殺する《五・一五事件》
	8	1933	飛行機「王子機」の命名式が北町（神谷3丁目）広場で行われる	日本が国際連盟を脱退する
	10	1935	赤羽の工兵第一大隊が「満州」へ出征、周辺町会らが部隊を見送る	陸軍の青年将校たちが部下を率いて反乱を起こす《二・二六事件》
	11	1936	家庭防火群（防空防火対策を行う団体）結成、焼夷弾の実験が荒川放水路で行われる	中国の盧溝橋で日本と中国の軍隊が戦う《日中戦争開始》
	12	1937	灯火管制、戦争の支援のための廃品回収や出征家族の自宅訪問が行われる	国家総動員法が公布され、戦争を支えるために国中の人々や物を使うことができるようになる
	13	1938	防護団が解散し、警防団が新たに組織される	ドイツがポーランドへ進行を開始する《第二次世界大戦開始》
	14	1939		砂糖・マッチの配給制度が開始、やがて食品や日用品も対象になる
	15	1940		9月 日本、ドイツ、イタリアの間で日独伊三国同盟が結ばれる
	16	1941	東京市が北谷端公園用地・志茂町公園用地を防空用地として買収する	4月 尋常小学校が国民学校に改められる

和暦	年	西暦	北区	日本と世界の動き
昭和	16	1941	王子公園に高射砲陣地（飛行機を打ち落とす大砲）がつくられる	12月 日本がハワイの真珠湾を空襲、アメリカ・イギリスなどに宣戦布告する《太平洋戦争開始》
	17	1942	王子区役所で陸軍女子挺身隊（工場などで働く未婚女性の組織）の結成式が行われる	4月 東京に初の空襲が行われる
	18	1943	王子・滝野川両区で防衛課・戦時生活課等が設置され、戦争への備えが強化される	6月 ミッドウェー海戦で日本が大敗する
	19	1944	区内各所に防空壕や防火用貯水池が建設される	7月 東京府・市を廃止して東京都となる
	20	1945	東京都が防空用地として王子公園を買収する	8月 空襲に備えて上野動物園のソウヤライオンなどの猛獣の殺処分が始まる
			区内の各国民学校が地方への学童集団疎開を実施する	9月 イタリアが無条件降伏する
			12月3日 北区で初めて本格的な空襲による被害が出る	10月 神風特別攻撃隊が飛行機での体当たり攻撃を開始する
			飛鳥山公園に空襲避難用横穴式防空壕が掘られる	12月 建物の強制疎開が始まる
	20	1945	2月19日 東京の空襲が激しくなり、豊島地域を中心に大きな被害が出る	3月9〜10日 アメリカ軍による東京大空襲、下町を中心に壊滅的な被害が生じる
			4月13〜14日 空襲で王子・滝野川両区で大きな被害が出る《城北空襲》	4月 アメリカ軍が沖縄本土に上陸する
			8月10日 空襲により、十条・稲付・袋町を中心に大きな被害が出る	5月 ドイツが無条件降伏する
			戦死者の遺体を神谷公園に仮埋葬する（1949年、東京都慰霊堂へ改めて埋葬）	8月6日 広島に原子爆弾が投下される
				8月9日 長崎に原子爆弾が投下される
				8月15日 アメリカ・イギリス・ソ連が降伏をよびかけたポツダム宣言を日本が受け入れる《第二次世界大戦終結》
				GHQ（※アメリカを中心とした国々が、日本をどのように復興させるかを決めるために作られた組織）の指示により、戦争にかかわる様々なことが廃止され、民主化が進められる
				10月 国際連合ができる
				5月 戦争を進めた日本の指導者たちの裁判が開始される
				11月 日本国憲法が公布される（翌年5月施行）
				旧町内会・隣組の廃止が決定される
				小学校6年、中学校3年の義務教育が始まる
昭和	20	1945	疎開していた学童が北区に戻る	
	21	1946	赤羽復興会商店街商業協同組合（赤羽一番街商店街）が結成される	
	22	1947	学校給食用として連合軍の放出物資が配給される	
			3月15日 王子区・滝野川区が合併し、北区が成立する	



北区にあった軍の施設

地図の番号1から15まで、北区には軍の施設が多数ありました。表にある施設の名前は、終戦時の名前で、つくられた当時は別の名前だった施設もあります。

最初にできた軍事施設は、15東京第二陸軍造兵廠板橋工場と6陸軍兵器補給廠赤羽火薬庫で、明治5年（1872）から土地の準備がはじまりました。15は兵器に必要な火薬をつくる工場で、6はつくられた火薬を保管する倉庫でした。

地図をみると、北区の中あたりの10〜15は、兵器を作る施設が集まっています。10東京第一陸軍造兵廠十条工場は、鉄砲や大砲の弾をつくる工場でした。いまの中央図書館は10のなかの工場だった建物のひとつです。北の方の6〜9は、倉庫が集まっています。7陸軍被服本廠は、軍服やくつをつくりたり保管して全国の兵士へ発送しました。8陸軍兵器補給廠は、10でつくられた兵器の倉庫でした。これらの施設は、軍専用の貨物線で結ばれ、汽車で物を発送していました。さらに北の1〜5は1第一師団工兵第一大隊と3近衛工兵第一連隊という二つの工兵隊が使用していました。工兵隊とは、戦いのために必要な陣地をつくりたり道や橋をつくる兵隊です。



終戦時の旧軍用地（『北区史』通史編近代より転載）

和暦	西暦	北 区	日本と世界の動き
昭和23年	1948年	陸軍火薬庫跡地に都営住宅の建設が始まる	
昭和26年	1951年		サンフランシスコ講話条約、日米安全保障条約が結ばれる
昭和27年	1952年	工兵隊跡地に都営桐ヶ丘住宅団地の建設が決定する（1957年より工事開始）	GHQが廃止され、日本が独立する
昭和30年	1955年	工兵隊跡地に都営桐ヶ丘住宅団地の建設が決定する（1957年より工事開始）	日本が国際連合に加盟する
昭和31年	1956年	工兵隊跡地に都営桐ヶ丘住宅団地の建設が決定する（1957年より工事開始）	
昭和33年	1958年	工兵隊跡地に都営桐ヶ丘住宅団地の建設が決定する（1957年より工事開始）	日米相互協力および安全保障条約（新安保条約）が結ばれる
昭和35年	1960年	北区役所とアメリカ軍による北区日米連絡協議会が開かれる	
昭和37年	1962年	被服本廠跡地に赤羽台団地が完成する	東京オリンピック開催
昭和38年	1963年		アメリカがベトナム戦争へ武力介入を始める（1975年終結）
昭和39年	1964年		
昭和40年	1965年		
昭和41年	1966年	アメリカ軍が地図局跡（キャンプ王子）に陸軍野戦病院の建設を始める	
昭和43年	1968年	アメリカ軍の王子野戦病院設置に反対するデモ隊と警官隊が衝突する	
昭和46年	1971年	王子野戦病院の開所式が行われる	小笠原諸島が日本に返還される
昭和47年	1972年	キャンプ王子が日本政府へ全面返還される	沖縄が日本に返還される
昭和49年	1974年	飛鳥山公園に平和の女神像を建てる	
昭和56年	1981年	キャンプ王子跡地に中央公園文化センターが建設される	
平成2年	1990年	北とびお開館、正面玄関前に平和祈念像を建てる	
平成11年	1999年	赤羽自然観察公園内に平和の森を建設する	
平成20年	2008年	旧東京第一陸軍造兵廠の工場（275号棟）が北区立中央図書館の一部として保存・活用される ※（）内の号棟番号は戦後に使われた通称	
令和3年	2021年	平和の女神像創建50周年記念式典を開催する	東京オリンピック・パラリンピック開催
令和6年	2024年	3月 北区平和都市宣言40周年、戦後80年誌を発刊する	

平和祈念像に込めた

北村西望さんの想いととは!?

日本を代表する彫刻家・北村西望さんは、平和をテーマにした作品を多く残したことも知られています。西望さんは大正5年（1916）から37年間、北区の上中里や西ヶ原のアトリエを拠点に活動していました。

昭和25年（1950）には、長崎市から「原爆犠牲者の冥福を祈る記念碑」の制作依頼が届きます。構想のなかで西望さんは、人類が平和を実現できない現状に目を向けました。平和の実現には、人種・国籍・宗教を超えた特別な存在が必要だと考え、その



北村西望作「北とびあ前の平和祈念像」この大きさの原型までは西ヶ原のアトリエで制作された。



「制作中の北村西望さん」昭和56年（1981）には北区初の名誉区民に選出された。

姿を平和祈念像で表すことにしました。

制作する長崎の平和祈念像は、高さ9メートルにおよび、当時の西ヶ原のアトリエには入りきらないほど巨大なものでした。それでも西望さんは、大きさを妥協することなく、井の頭公園内に新しいアトリエを建て、生活の場を移してまで制作を続けました。一度見たら誰もが記憶にとどめ、平和の大切さを忘れないでほしいという想いで、西望さんはこの巨大な平和像を完成させたのでした。

平和祈念像という名前にも、西望さんの想いが込められています。世界には、まだ

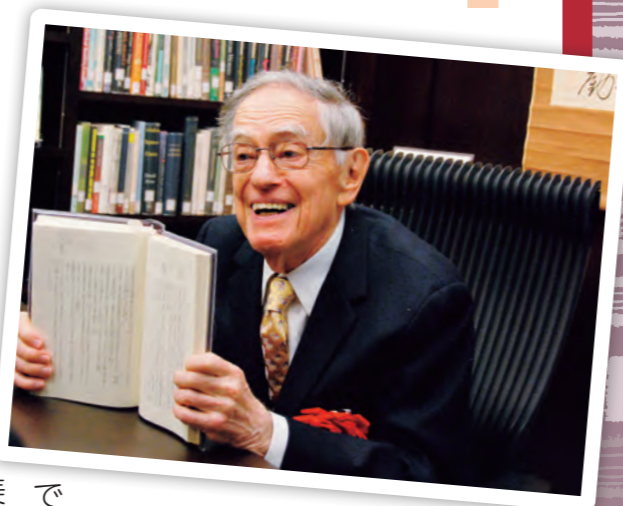


北村西望作「平和の女神像」昭和49年（1974）に平和をテーマにした像が飛鳥山公園内に設置された。

真の平和が訪れていないからこそ、記録としての「記念」ではなく、祈り続ける「祈念」という字を選び、この名を付けたのです。そして、平和への想いは像のポーズや表情でも表現されています。天に向かって指をさす右手は「原爆の恐ろしさ」を、水平に伸ばした左手は「平和」を、そっと閉じたまぶたは「原爆犠牲者の冥福を祈念する姿」を表しているのです。

ドナルド・キーンさんを 知っていますか?!

ドナルド・キーンさんは、アメリカ生まれの日本研究者です。日本をこよなく愛し、89歳で日本国籍を取得して日本人となり、平成31年（2019）2月に96歳で亡くなるまで45年間も北区西ヶ原で暮らしま



平成25年（2013）1月24日
北区立中央図書館ドナルド・キーンコレクションコーナー開設記念式典にて。

た。キーンさんは、戦争嫌いの平和主義者でした。子どものころは、百科事典の「戦争（War）」のページを開くことすら怖かったほどです。でも太平洋戦争では、アメリカ海軍に入隊します。その理由は、18歳のときに出会った日本の古典文学にありま

ではなく、美しい平和な世界でした。『源氏物語』の世界に心を奪われたキーンさんは、日本文化への関心を深め、日本語を学びたいという強い気持ちを抱くようになったのです。

事国家だと思いついでいました。けれども、英語で読んだ『源氏物語』に書かれていたのは戦いや暴力

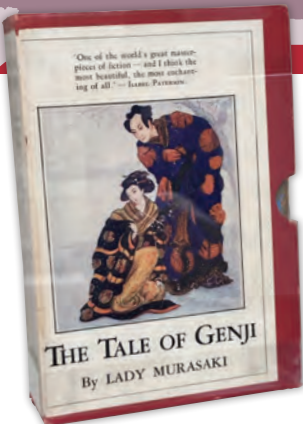
入学し、たった11か月で日本語の読み書きを習得することになります。語学将校として日本兵の日記を読んだとき、キーンさんは、死を覚悟した兵士の人間らしい心につれ、深く感動しました。そして、捕虜の日本人兵士にも公平に優しく接しました。たとえば、ある捕虜が「クラシック音楽が聴



昭和18年（1943）8月 エイダック島にて（ドナルド・キーン記念財団提供）アッツ島攻撃後に上陸したエイダック島で、ドナルド・キーンさん（後列左）とオーティス・ケリーさん（後列右）右手に銃、左脇に辞書を抱えている。

けなくて寂しい」というのを聞き、その兵士たちのために、こっそりレコード演奏会を開きました。キーンさんは敵であっても、人間として相手を尊重したのです。

戦争が終わった後、キーンさんはさらに日本研究を深めます。日本文学の翻訳のほか英語で著作を執筆して世界中の人々に日本の魅力を伝えました。日本の作家とも交流し、異なる文化を持つ人々の間に橋をかけました。違う国や違う文化を持つ人同士でも、お互いに理解し合うことで世界に平和が広がる——そのことを、私たちに教えてくれたのです。



北区平和マップ



- 赤羽地区
- 王子地区
- 滝野川地区



1 浮間橋の碑

浮間橋は、荒川放水路の工事で孤島のようにしまった浮間地区と赤羽北地区を結ぶため、昭和3年(1928)に陸軍近衛工兵大隊によって架けられました。現在の橋は、昭和60年(1985)に架けられたもので、橋の北詰めに建つ「浮間橋の碑」には、初代浮間橋建設の歴史が刻まれています。



2 軍用貨物引込線跡

赤羽の台地上には、軍事施設と赤羽貨物駅を結ぶ、専用の線路が敷かれていました。赤羽緑道公園は、その線路跡を公園として整備したもので、園内には、当時の様子を想像させる様々な工夫がみられます。



3 大東亜戦争犠牲者慰霊記念碑

旧神谷公園には、戦争で亡くなった方々の慰霊記念碑があります。この場所には、昭和20年(1945)3月から8月にかけて、神谷周辺で亡くなった三百数十名の方が仮埋葬されていました。昭和24年(1949)に東京都慰霊堂(墨田区横網)へ改めて埋葬されましたが、昭和50年(1975)7月に地元町内会の方々の手により慰霊碑が建てられました。



4 平和の森

平成11年(1999)に、世界平和を願う区民の祈りを込めて建設したものです。シンボルとなっている柿の木は、長崎に投下された原子爆弾の爆心地から、わずか900メートルの地点で生き残った柿の木の二世です。



9 須賀線跡

須賀線は、現在の豊島5丁目団地付近にあった工場と王子駅を結ぶ路線でした。今はもう線路はありませんが、王子4丁目交差点から延びる「紀州通り」は、この須賀線の跡です。



石井平八氏提供

10 軍用貨物線跨線橋跡

南橋下のちんちん山児童遊園には、軍の工場を結ぶ小型列車の軌道に設けられたトンネルの砕石が残されています。



11 平和祈念像

平和を願う区民のシンボルとして、平成2年(1990)7月に建てられました。この像の作者は北区初の名誉区民で彫刻家の北村西望氏です。長崎市平和公園にある「平和祈念像」の原型をもとに制作されています。



もっと知りたい ▶ 54 ページ

12 旧軍用貨物線の橋台

埼京線に架かる十条台橋から池袋方面を見ると、線路の左右にコンクリートの四角い橋台が残っています。かつてここには線路の上を陸軍のトラックが渡るための橋がありました。



戦災樹木

区内には、空襲の被害を受けた樹木が現在でも残っています。そうした樹木は戦災樹木とよばれ、戦争の記憶を今に伝えています。名主の滝公園、王子神社、上田端八幡神社の戦災樹木は、昭和20年(1945)4月13日夜から翌日にかけての空襲で被害を受けたものです。



①名主の滝公園 ケヤキ ②王子神社 イチョウ ③上田端八幡神社 イチョウ

場所	樹種	所在地
①	ケヤキ・スダジイ	岸町1-15-25
②	イチョウ	王子本町1-1-12
③	イチョウ・ケヤキ	田端4-18-1

掲載の地図は、デザインの都合により省略している部分があります。

5 防空壕の跡

北区では、戦時中、多くの防空壕が造られました。戦後ほとんどが埋め戻されましたが、東京北医療センターの南側斜面のものは保存され、赤羽台桜並木公園の一部になっています。



もっと知りたい ▶ 28 ページ

6 香取神社

赤羽一帯は昭和20年(1945)8月10日の空襲で被害を受けました。香取神社の境内には爆弾の破片の痕や吹き飛ばされた石碑などが残っています。



もっと知りたい ▶ 30 ページ

7 陸軍稲付射場跡

明治38年(1905)、現在の梅木小学校敷地付近一帯に、東京砲兵工廠(後の陸軍造兵廠火工廠)の射撃場が設けられ、火薬の爆破実験、鉄砲の発射実験などが行われていました。

現在、西が丘2丁目の道沿いに残る壁は、かつて、射撃場を囲んでいた外壁の一部といわれています。



年 組
氏 名

8 陸軍兵器補給廠跡

現在、ハイパフォーマンススポーツセンターとなっている一帯には、兵器の購入や保管、修理、支給などを行う陸軍兵器補給廠が置かれていました。

建物などは、すでに取り壊されていますが、公務員宿舎西が丘住宅先広場には当時使用されていた赤レンガが利用されています。

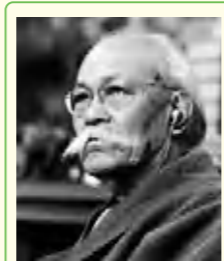


もっと知りたい ▶ 53 ページ

13 平和の女神像

戦後、日本と中国の国交が回復したことをきっかけに、人々の平和と幸福を願って、昭和49年(1974)5月に区民の協力のもと、建てられた女神像です。

作者は、平和祈念像と同じく、北村西望氏です。



北村西望氏

©写真 千葉浩志



14 豊島ドック跡

豊島ドックは、旧東京第二陸軍造兵廠王子工場(現・王子6丁目付近)から石神井川を経て隅田川へと通じていた物資輸送用の運河のことです。

現在では、埋め立てられて豊島公園になっていますが、敷地を掘り返せば、今でもドックを形作っていた石組みが確認できるといわれています。



笹目孝蔵氏提供

15・16・17 旧東京第一陸軍造兵廠

明治38年(1905)、小石川にあった東京砲兵工廠銃包製造所が十条(現・十条台1丁目)で、銃に使う弾薬や火薬類の製造を始めました。その後、昭和15年(1940)に東京第一陸軍造兵廠に組織が変わります。

周辺には製造所の一部が残っており、変圧所(254号棟)の一部⑩や弾丸の製造工場(275号棟)⑪、工場を囲んでいた外壁の一部⑫などは現在でも見ることができます。※()内の号棟番号は戦後に使われた通称



もっと知りたい ▶ 46 ページ

18 旧東京第一陸軍造兵廠本部事務所

中央公園文化センターの建物は、もともと、昭和5年(1930)4月に、十条台一帯に広がっていた兵器工場である陸軍造兵廠火工廠十条兵器製造所(後の東京第一陸軍造兵廠)の本部事務所として建てられました。終戦により、日本軍が使っていた土地や建物は、アメリカ軍の施設として使用されることになり、昭和46年(1971)に日本へ返還されるまで、さまざまな目的で使用されました。現在では、区民の生涯学習の場として、新たな歴史を刻んでいます。



昭和初期のようす(上)
戦後アメリカ軍が使用していた時期のようす(右)



もっと知りたい ▶ 45 ページ

19 憲兵の詰所

旧東京第一陸軍造兵廠滝野川工場(現・滝野川3丁目付近)の入口付近にあった憲兵の詰所。憲兵とは、陸軍の警察官のことで、詰所から人や物資の動きが監視されていました。



20・21・22・23・24 区内に残る軍用地の標石

かつて、北区には多くの軍事施設がありました。その面積を合計すると区の面積の約10%にもあたり、23区で最も高い割合でした。軍事施設の敷地を示す軍用地の標石は、現在でも区内の色々な場所に残っています。



20 「陸軍用地」西が丘2-21先
梅木小学校正門脇



21 「陸軍用地」王子本町3-2都営王子
本町三丁目アパート南側擁壁付近



22 「陸軍用地」滝野川2-32先



23 「陸軍用地」滝野川3-53
滝野川三丁目公園



24 「海軍用地」西ヶ原4-42付近

西ヶ原みんなの公園には、海軍の下瀬火薬製造所がありました。西ヶ原4-40から42にかけての道沿いには「海軍用地」②の標石のほかにも、いくつかの標石が残っています。

もっと知りたい ▶ 53 ページ

25 四本木稲荷神社

この稲荷神社は、旧東京第一陸軍造兵廠滝野川工場の構内にあり、工場ができる前からあった神社を改修し、十条の工場内にあった四本木稲荷神社(現在の中央公園)の神様を分けて祀ったものと伝えられています。鋳物の天水桶などは、十条の稲荷神社から移設されたものです。



赤羽地区

王子地区

滝野川地区

本誌の発行に際し、多くの皆様にご協力をいただきました。

【協力者一覧】(五十音順 敬称略)

(個人) 石川令子 大岡永助 越澤 明 杉山英一 (戦後 80 年誌編集会議) 有馬純雄 (北区史を考える会会長)
久保埜企美子 (北区飛鳥山博物館学芸員)
黒川徳男 (北区立中央図書館地域資料アドバイザー)
田中葉子 (北区飛鳥山博物館学芸員)

(機関・団体) アメリカ国立公文書館

一般財団法人ドナルド・キーン記念財団

王子神社

(漫画) さかいひろこ

香取神社

上田端八幡神社

中之条町歴史と民俗の博物館「ミュゼ」

公益財団法人北区文化振興財団

北区飛鳥山博物館

北区立中央図書館「北区の部屋」

主な参考文献

板橋区立郷土資料館編 (2025)『戦後 80 年 区民が生きた戦争の時代』板橋区立郷土資料館
一條三子 (2017)『学童集団疎開 受入れ地域から考える』岩波書店
岩脇彰編 (2013)『平和を考える 戦争遺物 1 子どもたちと戦争』汐文社
NHK スペシャル取材班ほか (2012)『東京大空襲 未公開写真は語る』新潮社
NHK スペシャル取材班 (2018)『本土空襲全記録』KADOKAWA
北区飛鳥山博物館編 (2016)『北区飛鳥山博物館研究報告』第 18 号 東京都北区教育委員会
北区飛鳥山博物館事業係編 (2017)『文化財研究紀要別冊第二十六集 北区における戦中・戦後の暮らしの変遷』北区教育委員会
北区教育史編集調査会編 (1993-1995)『北区教育史』通史・資料編 東京都北区教育委員会
北区史区議会史編集室編 (1971)『新修北区史』東京都北区
北区史編集調査会編 (1992-1996)『北区史』東京都北区
北区総務部女性政策課編 (1997)『戦時下にくらした女性たち—もうひとつの北区史 2』東京都北区
北区総務部総務課編 (1988)『真赤な空は忘れられない』東京都北区
北区総務部総務課編 (2006)『戦後 60 年 写真で語り継ぐ平和の願い』東京都北区
北区総務部総務課編 (2016)『北区戦後 70 年誌 記憶が紡ぐ平和への願い』東京都北区
北区総務部男女共同参画室編 (1999)『翔ばたく女性たち—もうひとつの北区史 3』東京都北区
北区立中央図書館編 (2009)『区民とともに歩む図書館をめざして 北区立中央図書館 (赤レンガ図書館)』東京都北区
北区立中央図書館編 (2018)『TOKYO 北区の KITA みち〜目で見える北区の歴史〜』東京都北区
北区立中央図書館編 (2019)『History of The Red brick building 赤レンガ棟の歴史と見どころ〜軍事施設から中央図書館へ〜』北区立中央図書館
北区立神谷小学校創立五十周年事業実行委員会編 (2005)『創立五十周年記念誌 神谷小学校』北区立神谷小学校
北区立滝野川第三小学校創立六十周年記念誌編集委員会編 (1976)『創立六十周年記念誌』北区立滝野川第三小学校
北区立滝野川第三小学校創立七十周年記念誌編集委員会編 (1987)『創立七十周年記念誌』北区立滝野川第三小学校
北区立堀船小学校五十周年記念誌委員会編 (1972)『創立五十周年記念誌』北区立堀船小学校
桐ヶ丘三十五年史編集委員会編 (1981)『桐ヶ丘三十五年史』北郊文化
北村西望 (1983)『百歳のかたむり』日本経済新聞社
北村西望 (1984)『北村西望』日本経済新聞社編『私の履歴書 文化人 9』日本経済新聞社
桐ヶ丘三十五年史編集委員会編 (1981)『桐ヶ丘三十五年史』北郊文化
栗原俊雄 (2022)『東京大空襲の戦後史』岩波書店
群馬県 (1963)『群馬県市町村合併史』群馬県総務部地方課
小山仁示訳 (1995)『日本空襲の全容 米軍資料マリアナ基地 B29 部隊』東方出版
早乙女勝元監修 (2001)『目でみる 戦争とくらし百科』1〜5 日本図書センター
昭和館学芸部監修 (2016)『写真でみる太平洋戦争とくらし・道具事典 人びとのくらし・道具』金の星社
戦争とくらしの事典編集室編 (2008)『戦争とくらしの事典』ポプラ社
高橋光子 (2018)『ぼくは風船爆弾』潮出版社
田代梢ほか編 (2007)『語りつぎお話絵本 せんそうってなんだっの?④学校』学習研究社
東京都神谷国民学校昭和 20 年度卒業生編著 (1991)『学童疎開追想』柏十会
砥上峰次 (1944)『紙芝居講演講座』慶文堂書店
西垣晴次ほか編 (1997)『群馬県の歴史』山川出版社
庭田杏珠ほか (2020)『AI とカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争』光文社
半藤一利 (2023)『半藤先生の「昭和史」で学ぶ非戦と平和 戦争の時代 1926〜1945』上・下 平凡社
福島のリよ (2017)『風船爆弾』富士房インターナショナル
ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館編 (2007)『第 22 回特別展図録 東京第一陸軍造兵廠の軌跡〜埼玉と東京を中心に〜』ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館
阪阪正康監修ほか (2015)『写真で見える太平洋戦争』II・III 山川出版社
ホビー・ジャパン (2012)『帝国陸海軍の銃器 Small Arms of Imperial Japanese Army & Navy』ホビー・ジャパン
松本泉 (2019)『日本大空襲 米軍戦略爆撃の全貌』さくら舎
村山士郎 (2021)『子どもたちが綴った戦争体験 シリーズ戦争』第 3・4 巻 新日本出版社
モリナガ・ヨウ (2017)『迷宮歴史倶楽部 戦時下日本の事物画報』学研プラス
安島太佳由ほか (2015)『平和を考える戦争遺産図鑑』岩崎書店
吉田裕 (2012)『ビジュアルブック語り伝えるアジア・太平洋戦争』第 3・4 巻 新日本出版社
吉成文成解説 (2015)『少女たちの学級日誌 瀬田国民学校五年習組 1944-1945』偕成社
若林宣 (2023)『B-29 の昭和史—爆撃機と空襲をめぐる日本の近現代』筑摩書房

凡例

- ・本誌に掲載した写真や文章の中には、人権擁護などの観点から現在使用されていない表現も見られますが、当時の実態を示すものとしてそのまま使用しています。
- ・字体は原則として常用漢字の新字体を使用していますが、固有名称や引用文中では旧字体等を残した場合もあります。
- ・本誌に掲載した写真及び図版については、所蔵者・提供者を付記しています。所蔵者名のないものは北区飛鳥山博物館の所蔵資料です。
- ・本誌に掲載している記事・写真・図版等の無断転載を禁じます。

編集後記

戦後 80 年が過ぎ、戦争を経験した世代の高齢化が進む中で、これまで北区に寄せられた貴重な資料や体験談を子どもたちに伝えたいという思いで本誌を編集しました。ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。 総務部総務課

行ってみよう！北区について学べる施設

北区飛鳥山博物館

北区の歴史・自然・文化を学ぶことができる博物館です。常設展示室では、北区の成り立ちから、古代人のくらし、江戸時代の名所の発展、さらには荒川の自然の様子まで、さまざまな展示を見ることができます。特別展示室では季節ごとに企画展を行っているほか、3階の飛鳥山アートギャラリーでは北区ゆかりの美術品や伝統工芸作品を展示しています。また、図録や各種オリジナルグッズを取り揃えたミュージアムショップ、カフェも併設しています。

- ◆住所：〒114-0002 東京都北区王子 1-1-3
- ◆電話：03-3916-1133 (休館日を除く)
- ◆開館時間：午前 10 時から午後 5 時 (常設展示室観覧券の発行は午後 4 時 30 分まで)
- ◆休館日：毎週月曜日、国民の祝日 (休日の場合は開館、直後の平日に振替休館)、年末年始 (12 月 28 日～1 月 4 日)、臨時休館日
- ◆観覧料：常設展のみ有料



北区立中央図書館

北区立中央公園内の赤レンガ建物 (大正 8 年 (1919) 築、旧東京第一陸軍造兵廠 (275 号棟)) を利用して平成 20 年 (2008) に移転・リニューアルオープンした図書館です。館内でも赤レンガ建物で使用されていた柱やガラスなどを見ることができます。中央図書館 1 階の北区の部屋では「北区のことなら何でも分かる」場所として、古い写真や地図・古文書なども所蔵しており、毎月テーマ展示も行っています。同じく 1 階ではドナルド・キーン氏からの寄贈図書「ドナルド・キーンコレクション」を公開しています。

- ◆住所：〒114-0033 東京都北区十条台 1-2-5
- ◆電話：03-5993-1125 (休館日を除く)
- ◆開館時間：平日・土曜日 午前 9 時から午後 8 時まで 日曜日・祝日 午前 9 時から午後 5 時まで
- ◆休館日：第 1・3・5 月曜日 (祝休日の場合は翌平日) 第 4 木曜日、年末年始 (12 月 28 日～1 月 4 日)、臨時休館日

読んでみよう！戦後 60 年誌・70 年誌

北区では 10 年ごとに戦争の記憶を語りつぐための周年誌を発行し、戦争が人、家族、街をどのような過程で変えていったのか、その様子、体験を様々な面から紹介しています。過去に発行した周年誌は北区のホームページでみることができます。

- ◆戦後 60 年誌 「戦後 60 年 写真で語り継ぐ平和の願い」(左) 平成 18 年 3 月 15 日 初版発行



- ◆戦後 70 年誌 「記憶が紡ぐ平和への願い」(右) 平成 28 年 3 月 15 日 初版発行

